

平成30年度実施

協働推進事業

公開プレゼンテーション

《とき 平成29年12月2日(土) 9時00分～12時20分》

《ところ 茅ヶ崎市役所本庁舎 4階 会議室 2・3》

【平成30年度に1年目として実施する事業】

【行政提案型協働推進事業】

事業テーマ	提案団体
(仮称)茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業	半農半xを楽しむ会
郷土資料デジタルライブラリー推進事業	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット

【市民提案型協働推進事業】

事業テーマ	提案団体
「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり	特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎

【平成30年度に2年目として実施する事業】

【行政提案型協働推進事業】

事業テーマ	提案団体
市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業	NPO法人スリーエフコミュニティサービス
茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト	特定非営利活動法人ドットジェイピー

【市民提案型協働推進事業】

事業テーマ	提案団体
ハマミーナ魅力UP大作戦	特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎
防災への動画活用	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
中学生への学習支援事業—わかる喜びを、生きる力に—	こども応援丸

目 次

平成30年度実施 協働推進事業公開プレゼンテーション進行予定表	1
協働推進事業の概要	2
茅ヶ崎市市民活動推進委員会委員名簿	3
評価及び採否の基準	4
公開プレゼンテーション終了後の予定	5
平成30年度に1年目として実施する事業	7
【行政提案型協働推進事業】	9
1 (仮称)茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業	11
2 郷土資料デジタルライブラリー推進事業	21
【市民提案型協働推進事業】	33
1 「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり	35
平成30年度に2年目として実施する事業	49
【行政提案型協働推進事業】	51
1 市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を 活用したメモリアル事業	53
2 茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト	61
【市民提案型協働推進事業】	73
1 ハマミーナ魅力UP大作戦	75
2 防災への動画活用	83
3 中学生への学習支援事業—わかる喜びを、生きる力に—	91

平成30年度実施 協働推進事業公開プレゼンテーション進行予定表

平成30年度に1年目として実施する事業

開会 9:00 (委員長あいさつ・委員紹介、プレゼンテーション及び選考方法についての説明) 10分

行政提案型協働推進事業 (担当課説明3分、団体説明10分、質疑10分)

	時間	事業テーマ	提案団体：担当課	総事業費 (30年度)	総事業費 (31年度)
1	9:10~9:33	(仮称) 茅ヶ崎公園体験学習施設 「はまかぜ菜園」等管理運営事業	半農半xを楽しむ会：青少年課	313千円	814千円
2	9:35~9:58	郷土資料デジタルライブラリー 推進事業	特定非営利活動法人湘南ふじさわシ ニアネット：図書館	1,640千円	1,383千円

市民提案型協働推進事業 (担当課・団体説明10分、質疑10分)

	時間	事業テーマ	提案団体：担当課	総事業費 (30年度)	総事業費 (31年度)
3	10:00~10:20	「下寺尾官衙遺跡群」 遺跡まちづくり	特定非営利活動法人アーバンデザイ ンセンター・茅ヶ崎：社会教育課	1,699千円	2,500千円

平成30年度に2年目として実施する事業

開会 10:30 (委員長あいさつ・委員紹介、公開ヒアリング及び選考方法についての説明) 5分

行政提案型協働推進事業 (担当課・団体説明7分、質疑10分)

	時間	事業テーマ	提案団体：担当課	総事業費 (30年度)
1	10:35~10:52	市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館 改修工事期間を活用したメモリアル 事業	NPO法人スリーエフコミュニティサービ ス：文化生涯学習課	228千円
2	10:54~11:11	茅ヶ崎市の未来を考える 政策コンテスト	特定非営利活動法人ドットジェイピー ：企画経営課	1,500千円

市民提案型協働推進事業 (担当課・団体説明7分、質疑10分)

	時間	事業テーマ	提案団体：担当課	総事業費 (30年度)
3	11:13~11:30	ハマミーナ魅力UP大作戦	特定非営利活動法人まちづくりスポット 茅ヶ崎：文化生涯学習課：福祉政策課	2,750千円

～休憩(10分)～

	時間	事業テーマ	提案団体：担当課	総事業費 (30年度)
4	11:40~11:57	防災への動画活用	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニア ネット：防災対策課	1,320千円
5	11:59~12:16	中学生への学習支援事業 一わかる喜びを、生きる力に	こども応援丸：学校教育指導課	1,329千円

閉会の挨拶 ~12:20



協働推進事業の概要

今回プレゼンテーションを実施する協働推進事業は、「行政提案型」と「市民提案型」とに大別できます。

	行政提案型協働推進事業	市民提案型協働推進事業
特徴 (事業の考え方)	協働推進事業は、市民ニーズの多様化や複雑化する地域課題に、より効果的に対応していくための事業です。事業内容に応じて最も効果的な方法を選択し、適切な役割分担により双方の責任において実施します。	
事業期間	【公募・選考】平成29年度 【事業の実施】平成30年度、31年度※原則2カ年事業として実施します。 (ただし、調査・研究や検証事業の性質を持つ事業の外、1年間で実施することが望ましい事業のみ、単年度事業として提案が可能です。)	
実施形態	原則として「事業協力」です。(市は負担金を支出します。)	
対象	茅ヶ崎市市民活動推進条例第11条に基づく登録を受けた市民活動団体及び法人格を有する団体	
対象事業	担当課が提案した事業	次の要件をすべて満たすもの ① 市内で実施されるもの又は市民が受益者となるもの ② 提案を行った市民活動団体等が実施するもの ③ 市と協働することで、相乗効果が期待できるもの ④ 茅ヶ崎市総合計画の方向性に沿ったもの
予算規模	総合計画実施計画事業として実施します。	
	事業ごとに上限額を設定。	市の負担金総額は2カ年で2,000万円以内とします。 (単年度上限額：1,000万円)
実施体制	主に担当課＋市民活動団体	主に担当課＋市民活動団体等 ※事業内容が複数の課の事務分掌のまたがる場合は、該当する課の職員でプロジェクトチームを編成して対応します。

茅ヶ崎市市民活動推進委員会委員名簿

区分	委員名	所属
市 民	草 野 正 弘	公募
	西 野 義 一	
	森 祐 一 郎	
市民活動を行う ものの代表者	椎 野 のり 子	NPO 法人市民活動を支える会理事
	葉 野 拓 也	NPO 法人まちづくりスポット茅ヶ崎事務局長
事業者の代表者	石 田 貴 一	湘南信用金庫執行役員茅ヶ崎営業部部长
	北 川 てつ や 也	公益社団法人茅ヶ崎青年会議所事務局長
	高 橋 じゅん じ 治	株式会社タウンニュース社湘南支社長 兼 茅ヶ崎編集室編集長
学識経験を 有する者	伊 藤 たかし 隆	元日本財団非営利セクター基盤整備事業企画 開発室部長
	大 江 ちり ゆき 之	放送大学客員教授 慶應義塾大学名誉教授
	中 川 く み こ 子	元横浜市政策支援センター主席研究員
	水 島 しゅう 一	社会福祉法人茅ヶ崎市社会福祉協議会 常務理事
	三 觜 けん 一	茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会の代表

評価及び採否の基準

平成30年度を1年目として提案された事業は、公開プレゼンテーションでの提案団体による説明や質疑をもとに、市民活動推進委員会委員が、次表に掲げる項目ごとに採点を行います。

審査項目及び満点	検討の視点	配点
事業テーマ・概要 (15点)	市民ニーズを的確に捉えたものであり、緊急性の面など、公共サービスとして重要性が高いものであるか。 <u>(市民提案型のみ)</u>	5点
	事業内容は、課題の解決につながるものであるか。また、その手法として適切か。	5点
	市民満足度の向上や具体的な成果(質の高い公共サービスの提供等)が期待できるか。	5点
協働の効果 (5点)	市との役割分担は適切であり、市が関わることの必要性が認められるか。協働することで相乗効果が得られるか。	5点
団体の能力(5点)	提案団体は、事業提案書の内容を実現するために必要な能力(アピール能力、実施体制を含む)を有しているか。	5点
市民活動としての特性(5点)	事業内容は市民活動の特性(先駆性・専門性等)を生かした手法、発想によるものとなっているか。	5点
事業の具体性・実現の可能性 (5点)	事業の実施手法、スケジュールは、事業目的を達成するために適切な内容となっているか。	5点
収支予算 (5点)	経費の予算配分及び内容は適正であるか。	5点
事業の発展性 (5点)	市民・他団体や事業者等に理解され、発展が期待できるか。または地域社会の市民力・自治力のアップにつながるか。	5点
<p>(評価基準) 3点「協働推進事業としてふさわしい」を基準とし、5段階評価を行います。</p> <p>(採否基準) ①「事業テーマ・概要」に「協働の効果」も含めた4項目の評価点の平均が3点以上を採択の必須条件とします。 ②「団体の能力」の評価点が3点以上を採択の必須条件とします。 ③審査項目の評価点の平均(全員の採点結果のうち最上位者1名と最下位者1名の点数は除く。)が3点以上を目安とします。</p>		

平成30年度を2年目として提案された事業は、公開プレゼンテーションに加え、平成29年度を1年目として実施している事業の中間評価と合わせて評価します。

注) 公平な審査を行うため、市民活動推進委員会委員には、次のような決まりがあります。

- 1 自己や親族が関係する団体の採点を行わない。
- 2 公開プレゼンテーションでは、自己や親族が関係する団体への質問を行うことはできない。また、委員自身がプレゼンテーションを行うことはできない。
- 3 評価会議(非公開)では、自己や親族が関係する団体の審議時に退席する。

(参考)

委員は、自己、配偶者若しくは3親等内の親族又は自己若しくはこれらの者の所属する団体に直接の利害関係のある事件については、その議事に加わることができない。(茅ヶ崎市市民活動推進委員会規則 第7条)

◆実施事業候補の内定（平成29年12月下旬～平成30年1月上旬）

市民活動推進委員会からの評価会議の答申を受けて、市長が決定します。審査結果は、文書で通知すると共に、説明の場を設け、直接お伝えします。また、ホームページなどを通じ、一般に公表します。

なお、事業の実施については平成30年3月末の茅ヶ崎市議会定例会に提出される予算案の審議・議決を経て正式に決定されます。

◆事業実施に向けての協議（実施事業候補の内定～平成30年3月末）

協働推進事業を効果的に実施するために、提案団体が作成した事業提案企画書を基本として、事業の細部を協議、確認し、協働事業計画書（仕様書）を作成します。

また、事業の開始前に協働事業計画書（仕様書）の内容を担保するための協定等を締結します。

○協議、確認する事項の例

- (1) 事業目的
- (2) 役割分担
- (3) 経費負担
- (4) 実施方法
- (5) 事業期間及びスケジュール
- (6) 守秘義務
- (7) 成果物の仕様と取り扱い
- (8) 事業途中での計画の変更に係る手続き
- (9) トラブル発生時の対応方法及び責任分担 など

○成果について

協働事業の成果は、原則として市民活動団体と市が共有し、公益的な目的のために利用できるものとし、事業の性格、実施方法、その他の理由により、成果を共有できない場合についても、その内容を双方合意のもとに、協定書等の文書に明記します。

*【必須条件】業務日報の作成と提出について

公共事業として事業を実施するにあたり、人件費等、費用の透明性を確保するために、日々の業務内容記録や有償スタッフの活動記録などをしっかりと残し、実績を中間・期末評価時に報告出来るようにしてください。具体的な活動内容が示されていない人件費とならないように注意してください。

◆事業の実施（平成30年4月～平成32年3月）

原則2年間の事業となりますので、平成30年4月から平成32年3月を事業期間とします。

※2年目の事業実施については、1年目の中間報告及び2年目の具体的な事業計画等について公開プレゼンテーションによる審査を行った上で決定します。（平成30年12月実施予定）

◆事業実施過程での協議と報告（平成30年4月～平成32年3月）

提案団体と担当課は、事業の進ちょく状況等について、定期的に協議を行います。また、提案団体は、事業終了後、実績報告書及び収支決算書を担当課に提出し、その結果を市民活動推進委員会に報告します。

◆**事業の評価**（1年目中間評価：平成30年9月／1年目期末評価：平成31年3月）

（2年目中間評価：平成31年9月／2年目期末評価：平成32年3月）

提案団体と担当課の双方が「事業内容」と「協働プロセス」についての評価を行い、結果を公表します。
市民活動推進委員会は、実施期間中及び終了後に評価を行います。

【**中間報告**】事業の途中で進捗状況を検証することで、事業の着実な推進を図ると共に、より大きな成果が得られるよう努めます。

【**最終評価**】事業の評価結果を共有します。また、第三者機関（市民活動推進委員会）による評価を行い、その結果を公表することで、協働推進事業の透明性、信頼性を向上させます。

◆**事業の公開**

事業の透明性と公開性を高めるため、応募書類（個人情報を除く。）、事業内容などを広報紙やホームページ、市政情報コーナー（市役所本庁舎1階）で公表します。

平成30年度に1年目として実施する事業

【行政提案型協働推進事業】（1年目）

募集事業テーマ	提案団体
(仮称) 茅ヶ崎公園体験学習施設 「はまかぜ菜園」等管理運営事業	半農半×を楽しむ会
郷土資料デジタルライブラリー推進事業	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット

Blank header area

Blank header area

Blank header	Blank header
Blank cell	Blank cell
Blank cell	Blank cell

Blank footer area

Blank footer area

行政提案型1 (仮称) 茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業
(半農半Xを楽しむ会)

協働推進事業企画書

(あて先) 茅ヶ崎市長

所在地	
名称	半農半xを楽しむ会
代表者氏名	長谷 享

茅ヶ崎市との協働により課題解決を図るため、次のとおり平成29年度提案型協働推進事業の提案をします。

提案事業の名称	(仮称) 茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業		
協働推進事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働推進事業 <input type="checkbox"/> 市民提案型協働推進事業		
協働の相手方 (行政の担当課)	青少年課		
事業費	平成30年度	313千円	
	平成31年度	814千円	
	【事業提案年度】平成29年度		
	【事業実施期間】平成30年4月1日～平成32年3月31日		

【添付書類】提出にあたっては、次の書類を添付してください。

- ① 事業概要書 (事業1年目)
- ② 収支計画書 (事業1年目)
- ③ 事業概要書 (事業2年目)
- ④ 収支計画書 (事業2年目)
- ⑤ 事業者等の概要及び活動実績を確認することができる資料
- ⑥ 団体概要書
- ⑦ 事業者等の規約
- ⑧ 事業者等の役員の氏名、住所及び役職名が記載された書類

⑤～⑧は事業者及び法人 (NPO法人を除く) の場合のみご提出ください。
 ⑦及び⑧については、登記簿の写し等に替えることができます。

連絡先 (日常的に連絡の取れる方を記入してください)

住所			
氏名			
電話		F A X	
携帯電話		E-Mail	

茅ヶ崎市総合計画のまちづくりの目標

① ひとづくり 学び合い育ち合う みんなの笑顔がきらめく ひとづくり	
<input type="radio"/>	次世代の成長を喜びあえるまち
<input type="radio"/>	次世代をはぐくむ教育力に富んだまち
<input type="radio"/>	次代に向かって教育環境ゆたかなまち
<input type="radio"/>	多様な機会に学び、活動し、交流する、豊かな感性をはぐくむまち
② 地域づくり いきいきと暮らす ふれあいのある 地域づくり	
	共に見守り支え合い すこやかに暮らせるまち
	質の高い医療サービスを安定的に提供するまち
<input type="radio"/>	だれもがいつまでも健康で安心して暮らせるまち
③ 暮らしづくり 安全でやすらぎのある 持続可能な 暮らしづくり	
<input type="radio"/>	環境に配慮し次代に引き継ぐ潤いのあるまち
	安全で安心して暮らせるまち
	生命や財産が守られるまち
④ まちづくり 人々が行きかい 自然と共生する便利で快適な まちづくり	
	魅力にあふれ住み続けたいまち
	だれもが快適に過ごせるまち
<input type="radio"/>	快適な水環境が守られるまち
	地域の魅力と活力のある産業のまち
<input type="radio"/>	農地の適正で有効な利用を図る
⑤ 行政経営 一人一人の思いが調和し 未来をひらく 行政経営	
	社会の変化に対応できる行政経営
<input type="radio"/>	それぞれが持つ力を最大限に発揮する行政経営
	ゆるぎない基盤を持ち続ける行政経営
	公金の管理を適正に行い、安全かつ有利な運用を図る
	住民の意思を行政に反映させる
	行政執行の適法性、効率性、妥当性を維持し確保する

*該当すると思うところに○を付けてください。複数でも構いません。

事業概要書（1年目）

実施年度	平成30年度
団体名	半農半xを楽しむ会
提案事業の名称	（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業
これまでの経過 （活動経過等）	香川公民館との協働で菜園作りの体験会や食育活動を実施。 NPO法人まちづくりスポット茅ヶ崎との協働でプランターを用いた土作りの講習、料理教室等の食育を実施。
現状の課題	都市化の影響を受け、土や植物などの自然に触れる機会が少なくなってきており、子どもたちは野菜がどのような形をしているのか、どのように育つのかを知らないと聞く。さらには多世代交流がなくなってきており、昔ながらの知恵や経験等を継承していく機会が大幅に減ってきている中、高齢化も進み早急な対応が必要と思われる。
事業の目的	子どもからお年寄りまであらゆる世代が土に触れ自然を学ぶ機会を提供し、自分たちの気づきや学びを共有しながら自分たちの「好き」や「得意」を知り、自立を促し生き甲斐を生み出す場としていく。 老若男女関係なく楽しく学び合い、多世代にわたっての交流が生まれ様々なものが生まれるような環境づくりを行う。
提案事業の目標 （目標値等）	【1年目の目標】 初年度の4月から12月までは開園に向けた準備期間として、定期的な説明会や農にまつわるお話し会などを実施し、サポーターや参加者を募っていく。 そして開園後の1月から3月までは参加者と共に菜園の基礎作りを行う。 講習会や勉強会を実施しながら実際に土や木や石などの材料を使い、土作りや造形をしながら実際の菜園を作っていく。 3月の末には種まきを実施できるように進める。 目標：開園前説明会6回、造園講座2回、土作り勉強会2回、種まき2回
1年目の 提案事業の概要	菜園作りを初年度の3カ月にわたって実施する。 子どもからお年寄りまで多世代を対象に毎回40名規模で集客を行い、内容としては連続講座の自由参加で構成する。 前回の講習会に参加した子が先生となる「子ども先生」として、初めて参加する子に前回の学びや気づきを共有し合うことでより学びを深めていくことと自信につながっていくことを期待する。 また大人は子どもたちの話に耳を傾け、子どもたちが自ら自分たちの「好き」「得意」を発見できるような、そんな場作りにご協力いただきながら、多世代交流のハブとして動き始めたい。
事業の対象	子どもからお年寄りまであらゆる世代がそれぞれに持っている能力を引き出せるように意識を持っていただく。その中で参加者全員が自分の得意や好きを活かせるような仕組みづくりを構築していく。

協働の必要性	<p>平成27年より農薬も肥料も使わない炭素循環農法で営業を営んでいます。茅ヶ崎市の健康活動の一環として、そのような農業や地産地消の推進、自給率の向上のためにもまずは市民の方々が土に触れる機会を持たせることが重要であり、茅ヶ崎市の持つ多世代への広報力を生かしたい。</p> <p>また我々が経験し得られた農業に関する専門的な知識やノウハウは市民の方々にとっても大きな財産になると考えられる。</p>
協働による相乗効果	<p>体験学習施設の魅力を存分に生かし、子ども達が土に触れる機会を得られると共に、幅広い多世代の方々の間でコミュニケーションやつながりが生まれ、農を通して健康意識の向上や市民農園等の活性化が期待できる。</p> <p>更には農との触れ合いや人とのつながりの中で生命の大切さに触れ、感謝や思いやりの心を育み、自分や周りを大切にできるような心を養う機会が多くの方々に波及していくことが期待される。</p>
市民活動としての特性	<p>開園前の4月から12月の間は説明会や農や土、食にまつわる勉強会などを開催しながら、多くの方々に関心を持っていただくと同時に、集まった方々が繋がりあうコミュニティの形成を形作っていく。</p> <p>開園後は単に農業体験だけではなく、園芸や食などにも触れながら多様な学びを提供し団体が有するネットワークを生かし、人を繋げていく仕組みやそれぞれの得意分野を活かせる仕組みなどを仕掛けて、活気あふれるものにしていくことを目指す。</p>
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座や実習のコンテンツの作成及び実施 ・定期的な菜園のメンテナンス ・コミュニケーションハブの役割 ・ボランティア等必要人員の募集 <p>2 市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者募集時の広報、受付 ・市民からのフィードバック調査等（アンケート、ヒヤリング）
事業実施体制	<p>講習会、実習等では講師役＋サポート2名の計3名以上で実施予定。</p> <p>通常のメンテナンス等に関しては、一定期間内に持ち回りで対応する予定。</p> <p>大規模のイベント等を実施の際はボランティアを活用。（4～5名ほど）</p>
事業スケジュール	<p>平成31年1月の開始に伴い、第一弾の講座としては子どもを対象とした造園作りの講習会を皮切りに、土作りや野菜作り、種についてなどのコンテンツを座学と実習を合わせて提供。</p> <p>一連の流れのある形で提供しつつも、個別に参加が可能。</p> <p>講習は全6回（一回1時間）として、月に2回（第1、第3日曜日）を講習日とする。それ以外の日はスタッフがいない時は作業等を状況に応じて共に行う。</p> <p>また平成30年4月から開園までの間も説明会や勉強会などを開催しながら関心を寄せ、参加者やスタッフを募っていく。</p>

収支計画書（1年目）

団体名	半農半xを楽しむ会
提案事業の名称	(仮称) 茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業

(収入)

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A	茅ヶ崎市負担金	233	
B	参加者負担金	80	参加費2,000円×40人
C			
D			
E	合計 (AからDまでの合計)	313	

(支出)

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F	人件費	210	スタッフ実費弁償(全体打合せ、事前準備、当日運営、講師打合せ、チラシ・報告書作成他)1,000円×2人×96回(週2日)、講習費3,000×6回
G	謝金		
H	旅費交通費	3	農機具、資材、種苗等運搬費 1回500円×6回
I	通信運搬費	2	切手、物品費 100円×20件 (市民団体、NPO法人等へ送付)
J	印刷製本費	34	資料コピー代10枚×40部×6回×10円=24,000円 ちらし印刷代10,000円(7000部)
K	物品費	40	プリンター用インク代5,000円 ノート、封筒、筆記用具等2,000円 農機具、資材(種、苗含む)、木材、倉庫、等 33,000円
L	賃借料		

M	保険料	7	行事保険1120円(28円×40名)×6回=6720円
N	一般管理経費 (諸経費)	17	直接事業費
O	事業費総額 (FからNまでの 合計)	313	

事業概要書（2年目）

実施年度	平成31年度
団体名	半農半xを楽しむ会
提案事業の名称	（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業
提案事業の目標 （目標値等）	<p>【2年目の目標】</p> <p>土作りや種まき、野菜の育て方、調理実習など、月に2回（第1、第3日曜日）講習会または実習会を実施。（日程については1年目でのヒアリング、アンケート等により適切な曜日設定を行う）</p> <p>その他スタッフと一緒に軽作業や収穫等は週に3日ほどのペースで実施。</p>
事業の概要	<p>種まきから野菜の栽培、管理収穫、調理と一連の作業を実施して、実際の野菜を育て方を学び、そして一緒に食べながら農や食の楽しさや大切さを学び感じる構成とする。</p> <p>1年目と同様に、参加者は子ども達ができるだけ主体的に動き「子ども先生」として学びと自信を深められるような環境づくりを行う。それらを通じて大人たちも世代を超えて繋がりあい、助け合い学び合えるようなコミュニティを形成していきたい。</p> <p>そしてここでは農業だけにとどまらず、写真や絵やものづくりなど、集まる人たちの得意を生かしていけるような場づくりを目指す。</p>
事業スケジュール	<p>4月5月は種まきを中心に春夏野菜やハーブなどの作付けを行う。</p> <p>混植しながら多様性ある菜園を作り出し、色鮮やかで多種多様で見た目にも楽しい菜園作りを目指す。6月から順次収穫できるものが出てくるため、収穫作業やメンテナンス（剪定、摘果、摘芯、草刈り等）を実践しながら学んでもらう。8月のお盆明けからは秋冬野菜に向けた植え付けなどを考えて、実際の種まきや苗作りなどを行う。その際自然を参考にした土作りも並行して行い、自然についての理解も深めていく。</p> <p>夏頃と秋～年末にかけて収穫祭などを行い、収穫したものを一緒に調理しみんなで食べながら参加者が交流できる場を作っていく。調理なども高齢の方が昔ながらの料理などを教えられるような機会も作りたい。</p> <p>それ以外にも味噌作りや藁を編んだり、昔は家庭で当たり前のようにしてきたことを学べるような講座も実施していく。</p> <p>また1月から3月までは収穫に加え、翌年に向けた土作りなどを行う。</p>
提案事業終了後の事業展開	<p>参加者の方々から価値を見出してもらえるように2カ年の中で経験を培い、提案事業終了後には参加費をいただきながらしっかりと継続して運営していけるような事業を実施する。またそれまでに人のつながりも構築し、コンセプトをご理解いただいた上でボランティアで参加してくださる方も募集し、団体と市民のみなさんと共に楽しみながら継続できるような仕組みづくり・雰囲気作りに努めていきたい。そしてここに参加された方々がサポーターと共に楽しみながら緩やかに繋がり合い、農やそれに携わるライフスタイルの実践に興味を抱き、ゆくゆくは耕作放棄地の対策や自給自足の実践、モノ・コトの循環などが自然発生的に行われ、より健康的で豊かな生活を日々ワクワクしながら送れるような環境づくりに取り組んでいきたい。そしてそれらが市全体へと波及し健康寿命の向上へとつながり、茅ヶ崎市全体の活力向上につながるよう取り組んでいきたい。</p>

収支計画書（2年目）

団体名	半農半xを楽しむ会
提案事業の名称	（仮称）茅ヶ崎公園体験学習施設「はまかぜ菜園」等管理運営事業

（収入）

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳（積算根拠）
A	茅ヶ崎市負担金	654	
B	参加者負担金	160	参加費2,000円×40人×2回
C			
D			
E	合計 (AからDまでの 合計)	814	

（支出）

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳（積算根拠）
F	人件費	528	スタッフ実費弁償(全体打合せ、事前準備、当日運営、講師打合せ、チラシ・報告書作成他)1,000円×2人×192回(週4日)、講習費3,000円×48回
G	謝金		
H	旅費交通費	12	農機具、資材、種苗等運搬費 1回500円×24回
I	通信運搬費	4	切手、物品費 100円×20件×2回 (市民団体、NPO法人等へ送付)
J	印刷製本費	116	資料コピー代10枚×40部×24回×10円=96,000円 ちらし印刷代10,000円(7000部)×2回=20,000円
K	物品費	70	プリンター用インク代30,000円 ノート、封筒、筆記用具等5,000円 農機具、資材(種、苗代含む)、木材等35,000円
L	賃借料		
M	保険料	27	行事保険1120円(28円×40名)×24回=26,880
N	一般管理経費 (諸経費)	57	直接事業費
O	事業費総額 (FからNまでの 合計)	814	

行政提案型2 郷土資料デジタルライブラリー推進事業
(特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット)

協働推進事業企画書

(あて先) 茅ヶ崎市長

所在地	
名称	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
代表者氏名	小林 信武

茅ヶ崎市との協働により課題解決を図るため、次のとおり平成29年度提案型協働推進事業の提案をします。

提案事業の名称	郷土資料デジタルライブラリー推進事業		
協働推進事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働推進事業 <input type="checkbox"/> 市民提案型協働推進事業		
協働の相手方 (行政の担当課)	教育推進部図書館		
事業費	平成30年度	1,640千円	
	平成31年度	1,383千円	
	【事業提案年度】平成29年度 【事業実施期間】平成30年4月1日～平成32年3月31日		

【添付書類】提出にあたっては、次の書類を添付してください。

- ① 事業概要書 (事業1年目)
- ② 収支計画書 (事業1年目)
- ③ 事業概要書 (事業2年目)
- ④ 収支計画書 (事業2年目)
- ⑤ 事業者等の概要及び活動実績を確認することができる資料
- ⑥ 団体概要書
- ⑦ 事業者等の規約
- ⑧ 事業者等の役員の氏名、住所及び役職名が記載された書類

⑤～⑧は事業者及び法人 (NPO法人を除く) の場合のみご提出ください。
 ⑦及び⑧については、登記簿の写し等に替えることができます。

連絡先 (日常的に連絡の取れる方を記入してください)

住所			
氏名			
電話		F A X	
携帯電話		E-Mail	

茅ヶ崎市総合計画のまちづくりの目標

① ひとづくり 学び合い育ち合う みんなの笑顔がきらめく ひとづくり	
	次世代の成長を喜びあえるまち
	次世代をはぐくむ教育力に富んだまち
	次代に向かって教育環境ゆたかなまち
○	多様な機会に学び、活動し、交流する、豊かな感性をはぐくむまち
② 地域づくり いきいきと暮らす ふれあいのある 地域づくり	
	共に見守り支え合い すこやかに暮らせるまち
	質の高い医療サービスを安定的に提供するまち
	だれもがいつまでも健康で安心して暮らせるまち
③ 暮らしづくり 安全でやすらぎのある 持続可能な 暮らしづくり	
	環境に配慮し次代に引き継ぐ潤いのあるまち
	安全で安心して暮らせるまち
	生命や財産が守られるまち
④ まちづくり 人々が行きかい 自然と共生する便利で快適な まちづくり	
○	魅力にあふれ住み続けたいまち
	だれもが快適に過ごせるまち
	快適な水環境が守られるまち
	地域の魅力と活力のある産業のまち
	農地の適正で有効な利用を図る
⑤ 行政経営 一人一人の思いが調和し 未来をひらく 行政経営	
	社会の変化に対応できる行政経営
	それぞれが持つ力を最大限に発揮する行政経営
	ゆるぎない基盤を持ち続ける行政経営
	公金の管理を適正に行い、安全かつ有利な運用を図る
	住民の意思を行政に反映させる
	行政執行の適法性、効率性、妥当性を維持し確保する

※該当すると思うところに○を付けてください。複数でも構いません。

事業概要書（1年目）

実施年度	平成30年度
団体名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
提案事業の名称	郷土資料デジタルライブラリー推進事業
これまでの経過 (活動経過等)	<p>湘南ふじさわシニアネットは、「シニアのもつ知識・技術・経験を生かし、地域社会に貢献する」をミッションとして、多様な地域課題の解決に注力してきた。</p> <p>会員には、茅ヶ崎市民も多く郷土の状況に精通している。</p> <p>茅ヶ崎市との協働推進事業としては、ICTを活用した地域コミュニティの醸成（平成22年度）、生涯学習ガイドブック検索システムの構築（平成24年度）、新しい公共の担い手ブラッシュアップ事業（平成24年度）、ちがさきエコネット事業（平成26年度）、リユースを中心とした4R促進事業（平成27年度）、防災への動画活用事業（平成29年度）と6件の広範な事案の経験がある。</p> <p>図書館については、国立がんセンターが主導する科学技術コミュニケーション推進事業「継続的なワークショップ運営による情報弱者向けがん情報ツールの作成と普及」事業の逗子チームで、平成26年から3年間、逗子図書館、慶應義塾大学などとともに図書館を利用してのがん情報の普及に協力してきた。</p> <p>また、茅ヶ崎図書館のクリスマス会には毎年ボランティアとして参加している。</p>
現状の課題	<p>図書館にある郷土資料をはじめとする貴重な資料の閲覧は、場所と機会が限られ、利用による破損も懸念される。茅ヶ崎市民の多くはこのような資料が存在していることすら知らないのではないだろうか？</p> <p>郷土資料の活用を通じて、市民が茅ヶ崎の文化に触れまた新しい文化を醸成していく必要がある。</p>
事業の目的	<p>郷土資料など貴重な資料をデジタル化し、インターネット上で公開することにより、資料の保存と利用を両立させる。利用者はどこにいても来館者と同様のサービスが受けられる。</p> <p>更に、郷土資料の収集・保存・利用を通じて、茅ヶ崎市の文化を守り育て、地域におけるさまざまな学びを発展させていく。</p>
提案事業の目標 (目標値等)	<p>【1年目の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化する資料の選定 市民団体や市民を巻き込んだワークショップを1回開催する ・デジタル化する資料 300枚以上 ・デジタル化した資料を保存するためのホームページの企画・設計・構築 ・デジタル化した資料を使ったワークショップ 2回開催 ・シンポジウム 1回開催

<p>1年目の 提案事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主として茅ヶ崎図書館の所蔵する貴重な資料を選別し、簡易な方法によりデジタル化する。 ・選別にあたっては郷土資料を精査し、例えば「南湖院から花開く文化」など、時代、場所、人などのテーマで候補を作成する。 ・郷土に関心の深い幅広い市民や市民団体の方の参加を求め、テーマ選別のワークショップに参加していただき、市民が関心の高いテーマを優先する。 ・選定した郷土資料をデジタル化する。 ・デジタル化した資料を保存・公開するホームページを作成する。このホームページは図書館ホームページからリンクする。 ・ホームページは、パスファインダー（情報の探し方・調べ方を案内するもの）のように、容易に見たい資料に辿り着けるように構築する。 ・デジタル化した資料を活用し、市民がわくわく感を持って参加できるワークショップを開催し、郷土デジタルライブラリーをはじめ公立図書館とその所蔵品に親近感を持っていただけるようにする。 ・公立図書館やデジタルライブラリー化の最新動向などを学習するシンポジウムを開催する。 ・これらのソフト事業を通じて、より多くの市民が参加できる学習活動を行う。 ・企画からシンポジウムを通じて、図書館学の権威である慶應義塾大学名誉教授 田村俊作先生、教授 池谷のぞみ先生に事業のアドバイザーからシンポジウムでの基調講演などをお願いする。
<p>事業の対象</p>	<p>茅ヶ崎市民</p>
<p>協働の必要性</p>	<p>行政は多くの貴重な郷土資料を所有しているが、単なる資料のデジタル化にとどまらず、郷土資料から新たな魅力を引き出し活用するためには、市民活動団体等と協働することで、団体が持つ専門性、先駆性を活用し、地域に密着し市民を巻き込んだ活動へ発展させる。</p>
<p>協働による 相乗効果</p>	<p>行政は多くの郷土資料を持ちこれらを見ていただきたい。一方、市民は、郷土資料の中で興味深いものがあれば見たい知りたい。更に、それらの資料を活用して新たな知識を得てゆきたい。 市民活動団体はこの両者のマッチングが図れる。</p>
<p>市民活動としての 特 性</p>	<p>公益性：市民にとって郷土を知りそれを愛することは最も重要な課題であり、公益性が高い。 当事者性：市民団体の構成員も市民として当事者である。 専門性：郷土知識や高度なICT（情報通信技術）を活用する。また、知的財産権やアクセシビリティに対する高い知見がある。 柔軟性：湘南ふじさわシニアネットは、約100名の多様な人材で構成され、柔軟な発想で参画できる。 創造性：柔軟性と同様、多様な創造性を発揮できる</p>

協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化する郷土資料のテーマ企画 ・市民を巻き込んだデジタル化する郷土資料の選定 ・関係する市民活動団体との連絡・調整 ・デジタル化の方法についての提案 ・対象資料のデジタル化 ・デジタル化した郷土資料を閲覧できるホームページの設計・構築 ・ワークショップやシンポジウムの企画・運営 ・ちらし等、広報資料の作成 ・プロジェクト管理（品質、スケジュール、コスト） ・議事録、報告書の作成 <p>2 市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所蔵する郷土資料の紹介と対象資料の選定、提供 ・関係課かいとの連絡調整 ・デジタル化の方法に対する意見と決定 ・デジタル化するための複写機器と作業場所の確保 ・デジタル化する郷土資料の著作権処理 ・広報ちがさき、市ホームページ、図書館ホームページ、図書館掲示などによる市民への広報 ・図書館システム事業者との調整 ・ワークショップ、シンポジウムのための会場の提供と参画 ・会議室の提供
事業実施体制	<p>統括責任者：小林信武 プロジェクトマネージャー：影浦憲一 スタッフ：瀬下孝之、松本学、小野寺清他</p>
事業スケジュール	<p>平成30年4月～平成31年3月 毎月の定例会議でのプロジェクト管理 平成30年4月～5月 全体企画 平成30年6月～7月 デジタル化する郷土資料のテーマ選定、そのためのワークショップの開催 平成30年6月～8月 ホームページの設計 平成30年6月～8月 郷土資料のデジタル化と著作権処理 平成30年9月～11月 ホームページの構築とデジタル化した郷土資料のアップロード 平成30年12月～平成31年2月 郷土資料活用のワークショップ 2回、図書館に関するシンポジウム 1回開催 平成31年1月～3月 次年度計画の検討</p>

収支計画書（1年目）

団 体 名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
提 案 事 業 の 名 称	郷土資料デジタルライブラリー推進事業

(収入)

	区 分	見積額 (単位：千円)	内訳（積算根拠）
A	茅ヶ崎市負担金	1,640	
B			
C			
D			
E	合 計 (AからDまでの合計)	1,640	

(支出)

	区 分	見積額 (単位：千円)	内訳（積算根拠）
F	人 件 費	1,261	プロジェクト管理 60工数×1620円=97,200円 企画 94工数×1620円=152,280円 デジタル化資料選定(選定のためのワークショップを 含む) 36工数×1620円=58,320円、 運営 15工数×1080円=16,200円 ちらし作成 20工数×1620円=32,400円 資料スキャン 150工数×1080円=162,000円 ホームページ要件整理、設計・開発・テスト 232工数×1620円=375,840円 郷土資料デジタルライブラリー広報ちらし作成 20工数×1620円=32,400円 ホームページ管理計画・運用 56工数×1620円= 90,720円 ワークショップ 企画・まとめ 2回×20工数×1620円=64,800円 運営 2回×15工数×1080円=32,400円 ちらし作成 2回×20工数×1620円=64,800円 シンポジウム 企画・まとめ 20工数×1620円=32,400円 運営 15工数×1080円=16,200円 ちらし作成 20工数×1620円=32,400円
G	謝 金	100	企画会議謝礼 2人×2回×10000円=40,000円 デジタル化資料選定ワークショップ 2人×1回×10000円=20,000円 シンポジウム講演 1人×2時間×20000円=40,000円

			(上記は交通費込み)
H	旅費交通費	44	プロジェクト管理 24人回×550円=13,200円 郷土資料精査・企画会議 12人回×550円=6,600円 選定ワークショップ 8人回×550円=4,400円 スキャン 20人回×550円=11,000円 ワークショップ 10人回×550円=5,500円 シンポジウム 5人回×550円=2,750円
I	通信運搬費		
J	印刷製本費	30	選定ワークショップちらし 5,000円 郷土資料デジタルライブラリーちらし 10,000円 ワークショップちらし 2回×5000円=10,000円 シンポジウムちらし 5,000円
K	物品費	18	プリンターインク代、用紙代 1,500円/月×12か月=18,000円
L	賃借料	38	サーバー・ドメイン代 37,800円
M	保険料		
N	一般管理経費 (諸経費)	149	A~M合計 1,491千円×10%以下
~	事業費総額 (FからNまでの合計)	1,640	

事業概要書（2年目）

実 施 年 度	平成31年度
団 体 名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
提案事業の名称	郷土資料デジタルライブラリー推進事業
提案事業の目標 (目標値等)	<p>【2年目の目標】</p> <p>前年度に引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化する資料の選定 市民団体や市民を巻き込んだワークショップを1回開催する ・デジタル化する資料 300枚以上 ・デジタル化した資料を保存するためのホームページの運用・新たな資料のアップロード ・デジタル化した資料を使ったワークショップ 2回開催 ・シンポジウム 1回開催
事業の概要	<p>茅ヶ崎図書館の所蔵する貴重な郷土資料は膨大なものであり、1年間の事業で完成するような簡単なものではない。</p> <p>2年目の事業は前年度の反省を踏まえ、また市民の新たな期待に応えるべく、前年度と同様なステップで実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として茅ヶ崎図書館の所蔵する貴重な資料を選別し、簡易な方法によりデジタル化する。 ・選別にあたっては前年度に積み残した郷土資料を精査し、また市民の新たな期待に応えて、時代、場所、人などのテーマで候補を作成する。 ・郷土に関心の深い幅広い市民や市民団体の方の参加を求め、テーマ選別のワークショップに参加していただき、市民が関心の高いテーマを優先する。 ・選定した郷土資料をデジタル化する。 ・前年度に作成したホームページを運用するとともに、新たにデジタル化した資料をアップロードする。必要なら、小規模改造を行う。 ・デジタル化した資料を活用し、市民がわくわく感を持って参加できるワークショップを開催し、郷土デジタルライブラリーをはじめ公立図書館とその所蔵品に親近感を持っていただけるようにする。 ・公立図書館やデジタルライブラリー化の最新動向などを学習するシンポジウムを開催する。 ・これらのソフト事業を通じて、より多くの市民が参加できる学習活動を行う。 ・企画からシンポジウムを通じて、図書館学の権威である慶應義塾大学名誉教授 田村俊作先生、教授 池谷のぞみ先生に事業のアドバイザーからシンポジウムでの基調講演などを引き続きお願いする。

<p>事業スケジュール</p>	<p>平成31年4月～平成32年3月 毎月の定例会議でのプロジェクト管理 平成31年4月～5月 前年度の振り返りと今年度の企画 平成31年6月～7月 今年度にデジタル化する郷土資料のテーマ選定、そのためのワークショップの開催 平成31年6月～8月 郷土資料のデジタル化と著作権処理 平成31年6月～9月 ホームページの強化とデジタル化した郷土資料のアップロード 平成31年10月～平成32年2月 郷土資料活用のワークショップ 2回、図書館に関するシンポジウム 1回開催 平成32年3月 事業の総括と引継ぎ</p>
<p>提案事業終了後の事業展開</p>	<p>郷土資料は大量にあり、市民から求められるものも時代や市民の成長とともに変わっていく。 茅ヶ崎図書館として、郷土資料のデジタル化を引き続き行っていただきたい。 また、公立図書館のあり方も急速に変化しつつある。</p> <p>湘南ふじさわシニアネットは、約100名の多様な人材を擁しており、求められれば、今後とも図書館の課題解決に協力していきます。</p>

収支計画書（2年目）

団 体 名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
提 案 事 業 の 名 称	郷土資料デジタルライブラリー推進事業

(収入)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A 茅ヶ崎市負担金	1,383	
B		
C		
D		
E 合 計 (AからDまでの合計)	1,383	

(支出)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F 人 件 費	1,028	プロジェクト管理 60工数×1620円=97,200円 企画 94工数×1620円=152,280円 デジタル化資料選定(選定のためのワークショップを含む) 36工数×1620円=58,320円、 運営 15工数×1080円=16,200円 ちらし作成 20工数×1620円=32,400円 資料スキャン 150工数×1080円=162,000円 郷土資料デジタルライブラリー広報ちらし作成 20工数×1,620円=32,400円 ホームページ運用 144 工数×1620円=233,280円 ワークショップ 企画・まとめ 2回×20工数×1620円=64,800円 運営 2回×15工数×1080円=32,400円 ちらし作成 2回×20工数×1620円=64,800円 シンポジウム 企画・まとめ 20工数×1620円=32,400円 運営 15工数×1080円=16,200円 ちらし作成 20工数×1620円=32,400円
G 謝 金	100	企画会議謝礼 2人×2回×10000円=40,000円 デジタル化資料選定ワークショップ 2人×1回×10000円=20,000円 シンポジウム講演 1人×2時間×20000円=40,000円 (上記には交通費込み)
H 旅 費 交 通 費	44	プロジェクト管理 24人回×550円=13,200円 郷土資料精査・企画会議 12人回×550円=6,600円 選定ワークショップ 8人回×550円=4,400円 スキャン 20人回×550円=11,000円

			ワークショップ 10人回×550円=5,500円 シンポジウム 5人回×550円=2,750円
I	通信運搬費		
J	印刷製本費	30	選定ワークショップちらし 5,000円 郷土資料デジタルライブラリーちらし 10,000円 ワークショップちらし 2回×5000円=10,000円 シンポジウムちらし 5,000円
K	物品費	18	プリンターインク代、用紙代 1,500円/月×12か月=18,000円
L	賃借料	38	サーバー・ドメイン代 37,800円
M	保険料		
N	一般管理経費 (諸経費)	125	A~M合計 1,258千円×10%以下
O	事業費総額 (FからNまでの合計)	1,383	

【市民提案型協働推進事業】（1年目）

提案事業名	提案団体
「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり	特定非営利活動法人 アーバンデザインセンター・茅ヶ崎

Date	Description

市民提案型1 「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり
(特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎)

協働推進事業企画書

(あて先) 茅ヶ崎市長

所在地	
名称	特定非営利活動法人 アーバンデザインセンター・茅ヶ崎
代表者氏名	理事長 高見澤和子

茅ヶ崎市との協働により課題解決を図るため、次のとおり平成29年度提案型協働推進事業の提案をします。

提案事業の名称	「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり		
協働推進事業の種別	<input type="checkbox"/> 行政提案型協働推進事業 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働推進事業		
協働の相手方 (行政の担当課)	社会教育課		
事業費	平成30年度	1699千円	
	平成31年度	2500千円	
	【事業提案年度】平成29年度 【事業実施期間】平成30年4月1日～平成32年3月31日		

【添付書類】提出にあたっては、次の書類を添付してください。

- ① 事業概要書（事業1年目）
- ② 収支計画書（事業1年目）
- ③ 事業概要書（事業2年目）
- ④ 収支計画書（事業2年目）
- ⑤ 事業者等の概要及び活動実績を確認することができる資料
- ⑥ 団体概要書
- ⑦ 事業者等の規約
- ⑧ 事業者等の役員の氏名、住所及び役職名が記載された書類

⑤～⑧は事業者及び法人（NPO法人を除く）の場合のみご提出ください。
 ⑦及び⑧については、登記簿の写し等に替えることができます。

連絡先（日常的に連絡の取れる方を記入してください）

住所			
氏名			
電話		F A X	
携帯電話		E-Mail	

茅ヶ崎市総合計画のまちづくりの目標

① ひとづくり 学び合い育ち合う みんなの笑顔がきらめく ひとづくり	
	次世代の成長を喜びあえるまち
	次世代をはぐくむ教育力に富んだまち
	次代に向かって教育環境ゆたかなまち
○	多様な機会に学び、活動し、交流する、豊かな感性をはぐくむまち
② 地域づくり いきいきと暮らす ふれあいのある 地域づくり	
	共に見守り支え合い すこやかに暮らせるまち
	質の高い医療サービスを安定的に提供するまち
	だれもがいつまでも健康で安心して暮らせるまち
③ 暮らしづくり 安全でやすらぎのある 持続可能な 暮らしづくり	
	環境に配慮し次代に引き継ぐ潤いのあるまち
	安全で安心して暮らせるまち
	生命や財産が守られるまち
④ まちづくり 人々が行きかい 自然と共生する便利で快適な まちづくり	
○	魅力にあふれ住み続けたいまち
	だれもが快適に過ごせるまち
	快適な水環境が守られるまち
	地域の魅力と活力のある産業のまち
	農地の適正で有効な利用を図る
⑤ 行政経営 一人一人の思いが調和し 未来をひらく 行政経営	
	社会の変化に対応できる行政経営
	それぞれが持つ力を最大限に発揮する行政経営
	ゆるぎない基盤を持ち続ける行政経営
	公金の管理を適正に行い、安全かつ有利な運用を図る
	住民の意思を行政に反映させる
	行政執行の適法性、効率性、妥当性を維持し確保する

※該当すると思うところに○を付けてください。複数でも構いません。

事業概要書（1年目）

実施年度	平成30年度
団体名	特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎
提案事業の名称	「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり
これまでの経過 （活動経過等）	<p>国指定史跡「下寺尾官衙遺跡群」は、2017年3月に保存活用計画が策定され、今後数十年の事業の方向性が示された。今後、これを着実に実行してゆくとともに、これをきっかけとした新たな地域づくりを展望してゆくことが重要となる。その第一歩として、同年秋から冬にかけては、「七堂伽藍跡碑」建碑60周年記念事業が実施され、地域を巻き込んだ取り組みが実施されている。提案団体「特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎（以下、UDCC）」は、七堂伽藍跡碑建碑60周年記念実行委員会（会長・小出地区まちちから協議会会長）に参加し、協賛事業として、以下のプログラムを提供している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) まち歩き音声ガイド無料貸出 2) 「遺跡×景観」香川・下寺尾まち歩き 3) 「遺跡周辺まち歩き」プラットフォーム
現状の課題	<p>上記のとおり、史跡の保存活用やその関連事業を実行・実現してゆくためには、目下のところ以下3点が課題であると認識している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文化財やまちづくり等の多分野が連携すること これまで発掘調査から計画策定まで文化財保護の分野が中心的役割を担ってきたが、現代社会のなかでの活用を進めていくためには、まちづくり分野と協働した「遺跡まちづくり」を推進してゆく必要がある。 2) 多様な世代・多彩な人材の参画があること まちちから協議会や自治会等をベースとした地域住民の関与はもちろんのこと、「国の宝」である当該遺跡には、市内外の人々の叡智を結集してその保存活用に当たることが望ましい。いかに関心層の裾野を広げていくかが重要である。 3) 遺跡の現場において情報を発信すること 平成30年度には史跡地の一部の仮整備が行われる予定であり、現地において遺跡の本質的価値やまちづくりの動きを的確に発信してゆく必要がある。
事業の目的	<p>以上の現状認識を踏まえて、本協働推進事業（2カ年）では、以下の3点を事業目的として設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 現代の地域における営み（くらし・なりわい）と遺跡との接点から、その価値を理解し、活用方法を検討する。 2) 市内外から思いやスキルを持った多様な世代、多彩な人材を集め、遺跡活用のアイデアを募り、実行する。 3) 当該遺跡の現場において、まちづくりも含めた遺跡の保存活用の動きを「見える化」する。
提案事業の目標 （目標値等）	<p>【1年目の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域資源の把握調査等を通じて、まちちから協議会や自治会等の地元との信頼関係を築き、遺跡まちづくりの実行に向けた行政、地元、UDCCの協力関係を構築する。 2) これまで当該遺跡の関連イベント等に参加のなかった新たな層を、本事業における一連のプログラムに巻き込み、市内外における下寺尾官衙遺跡群のファンを増やす。

1年目の
提案事業の概要

1年目は、事業目的の1) および2) の一部に対応し、以下2つのプロジェクトを実施する。

■プロジェクト_1 遺跡まちづくり基礎調査【主担当：UDCC+社会教育課+首都大学東京】

下寺尾官衙遺跡群を含めた周辺地域（香川・下寺尾・みずき）のまちづくりを進めていくための基礎的情報の収集・整理を行う。

①香川・下寺尾・みずきの地域資源の把握調査

地域における現在の営みと遺跡との接点を探ることを目指し、地域資源の発掘、整理を行い、地図化を行う。既に過年度の取り組みのなかで予備調査は終わっている段階であり、成果はまち歩き音声ガイド等に反映されている。（担当：UDCC+首都大学東京）。

A.地域資源の発見・整理（既存の調査等のレビュー、まち歩きによる発見）

B.地元キーマン・キー組織へのインタビュー調査（熊澤酒造、伊右衛門農園、まちぢから協議会、自治会等）

C.地図化

②遺跡まちづくり事例調査

国指定史跡を中心に、全国の遺跡まちづくりの事例調査を行う（担当：首都大学東京）。文献やインターネット等の情報検索によりリスト化した後、先進事例（南アルプス市、北秋田市等）に関して実地調査を行い、遺跡まちづくりのプロセスや組織を把握する。UDCCはその成果をプロジェクト2のラウンドテーブル、プロジェクト3の遺跡ハッカソン、そして今後整備が計画されている史跡公園などまちづくりに活かしていく。

*南アルプス市御勅使川の堤防遺跡では、AR（拡張現実）技術を導入し、地下遺構が体感できるアプリを提供している。また、北秋田市伊勢堂岱遺跡は、景観計画と一体となった整備を進めている。

■プロジェクト_2 テーマ別ラウンドテーブル【主担当：UDCC+社会教育課+外部専門家】

下寺尾官衙遺跡群に対して興味・関心を持つ層を特定し、彼らの当該地に対する思いやまちづくりのアイデアを引き出す。とくに、2年目（平成31年度）に予定している「遺跡ハッカソン」の参加者層として、①高校生、②IT技術者、③アーティスト、④地元キーマンを想定し、プロジェクト1での成果をもとに、遺跡に対する彼らの関心を高めるような情報提供を行った後、彼らの立場やスキルをもってして、どのような関わり方が可能か議論を行う。



※UDCC下寺尾官衙遺跡群まち歩きシリーズの一部は、60周年記念事業として実施

事業の対象	<p>1) 整備予定の史跡公園やその周辺のまちづくりに日常的関わる遺跡周辺の住民 2) これまで当該遺跡とは、距離のあった層（IT技術者やアーティスト等） 3) まちづくり、環境保護、健康長寿などをテーマに活動する市民団体、大学 4) 茅ヶ崎北陵高校在校生、卒業生、教員</p>
協働の必要性	<p>前述のとおり、下寺尾官衙遺跡群に求められているのは、保存と活用の両立である。「保存活用計画」（前掲）には、「古代の地形が残る史跡の特徴を活かし、富士山の遠景を含めた景観の保全・形成や近隣市町の文化資源や観光資源と連携した広域での活用を図る」との活用の方向性が述べられている。また、活用の方法として、コミュニティの活性化、広域連携と観光、情報発信があげられている。UDCCは市民性と専門性を兼ね備え、市民や他市の人たちとのネットワークを活かしながら、まちづくりを実践している。このUDCCと、文化財保護・教育を専門分野とする社会教育課の協働により「保存活用計画」が実を結ぶことになる。</p>
協働による相乗効果	<p>協働による相乗効果は3点ある。第一に、社会教育課がまちづくりのプロセスや方法を体験し、UDCCが下寺尾官衙遺跡群の価値を深く理解することで、活用の方向性を共有することができる。これは今後、長期にわたる事業を推進する上で非常に重要な点である。</p> <p>第二に、社会教育課が有する遺跡に関する専門的情報を、UDCCのチャンネルを使って発信することで、文化財に関心が薄かった人たちへ遺跡の価値や魅力を届けることができる。</p> <p>第三に、UDCCは、2017年10月現在で全国16組織が加盟するUDC（アーバンデザインセンター）ネットワークの一員であり、茅ヶ崎における公・民・学による遺跡まちづくりは、モデル的取り組みとして全国に発信することができる。</p>
市民活動としての特性	<p>UDCCは2016年8月にNPO法人を設立し、公・民・学の連携や、人材や活動が集まるセンターとしての役割を果たすことを目指している。また、都市空間のデザインや景観などを入り口としたまちの課題解決に取り組んでいる。</p> <p>そのUDCCの前身組織は、市民参加の景観まちづくりをテーマに20年間活動し、2017年3月に解散した市民グループ「まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎」であり、景観資源調査、まちの魅力発掘、インタビュー調査などのスキルがUDCCには引き継がれている。</p>
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割 本協働推進事業において、提案団体UDCCが果たす役割としては、第一にまちづくりのノウハウの提供、第二に団体メンバーのネットワークを活かした外部専門家との協働、第三に市民目線での情報発信である。</p> <p>2 市に期待する役割 社会教育課には、遺跡の保存活用の整備主体として遺跡まちづくりに対してもリーダーシップが期待される。また、文化財保護に関する行政的・専門的情報や技術の提供、関連する市の他部局との連携なども重要な役割である。</p>
事業実施体制	<p>UDCCは、本事業の事務局局的機能（進行管理、会計、関係機関との連絡調整の役割）を担う。また、メンバーの専門性やスキルを活かし、地域資源の調査や地元でのネットワークづくり等に尽力する。</p> <p>UDCCがハブとなり、外部人材との協働体制を築く。まちづくりの専門家である首都大学東京観光科学域の岡村研究室や、これまでハッカソンの企画に携わってきた田中徹氏（富士ゼロックス、慶應義塾大学特任教授）の支援を受ける。</p> <p>茅ヶ崎市（主に社会教育課）は、遺跡に関する情報提供や実務的協力を行う。</p>

事業スケジュール	2018年4月	キックオフ（事業内容の確認）
	2018年5月～10月	プロジェクト_1 遺跡まちづくり基礎調査
	2018年11月～2019年2月	プロジェクト_2 テーマ別ラウンドテーブル
	2019年3月	1年目の成果とりまとめ
<p>※本協働推進事業の主体であるUDCCと社会教育課は、1～2ヶ月に1回程度の企画会議を開催する。</p>		

収支計画書（1年目）

団 体 名	特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎
提 案 事 業 の 名 称	「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり

(収入)

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A	茅ヶ崎市負担金	1699	
B			
C			
D			
E	合 計 (AからDまでの合計)	1699	

(支出)

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F	人 件 費	662	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事例実地調査同行 21,000円 1,500円×7h×1人×2回=21,000円 ■ 聞き取り調査 25,000円 内訳：1,500円×2h×1人×5回=15,000円 1,000円×2h×1人×5回=10,000円 ■ 資料収集・整理 30,000円 1,500円×10h×2人=30,000円 ■ ラウンドテーブル事前準備 136,000円 内訳：資料作成1,500円×4h×2人×4回=48,000円 資料印刷等1,000円×4h×3人×4回=48,000円 進行打合せ1,500円×2h×2人×4回=24,000円 1,000円×2h×2人×4回=16,000円 ■ ラウンドテーブル実施 168,000円 内訳：1,500円×6h×2人×4回=72,000円 1,000円×6h×4人×4回=96,000円 ■ 市と企画会議 120,000円 内訳：1,500円×2h×2人×12回=72,000円 1,000円×2h×2人×12回=48,000円 ■ 議事録作成 12,000円 1,000円×2h×1人×6回=12,000円 (企画会議の議事録。市と輪番) ■ 内部会議 120,000円 内訳：1,500円×2h×2人×12回=72,000円 1,000円×2h×2人×12回=48,000円 ■ ブログでの情報発信 30,000円 1,500円×2h×1人×10回=30,000円 <p>* 専門的技能を要する業務は、1,500円/h</p>
G	委 託 費	624	大学研究室へ業務委託 (プロジェクト1 遺跡まちづくり基礎調査)

			<p style="text-align: right;">事業概要書2ページ参照</p> <p>■フィールド調査 136,000円 人件費(学生アルバイト費) 1,200円×40h×2人=96,000円 物品費(GPS付きデジタルカメラ) 40,000円 ■文献、ネット等での情報検索調査 73,000円 人件費(学生アルバイト):1,200円×20h×2人=48,000円 物品費(図書購入):2,500円×10冊=25,000円 ■事例実地調査(南アルプス市・北秋田市など) 256,000円 南大沢—甲府市往復交通費 6,000円×3人=18,000円 南アルプス市現地レンタカー 10,000円 宿泊費 10,000円×2泊×3人=60,000円 南大沢—小ヶ田往復交通費 36,000円×3人=108,000円 宿泊費 10,000円×2泊×3名=60,000円 ■調査取りまとめ・レポート作成 132,000円 人件費(学生アルバイト):1,200円×30時間×2人=72,000円 印刷製品費 30,000円 物品費(文房具類) 30,000円 ■旅費交通費 26,280円 南大沢—茅ヶ崎:1,460円×6回×3人=26,280円</p>
H	謝金	100	<p>■講師謝礼 100,000円×1人 (会議での助言 10,000円×5回+ラウンドテーブルの運営支援 10,000円×4回+総括10,000円)</p>
I	旅費交通費	86	<p>■事例実地調査同行 83,000円 内訳 茅ヶ崎—甲府市往復5,000円×1人=5,000円 宿泊費 10,000円×2泊×1人=20,000円 茅ヶ崎—小ヶ田往復38,000円×1人=38,000円 宿泊費 10,000円×2泊×1人=20,000円 ■大学での打合せ 2,920円 1,460円×1人×2回=2,920円</p>
J	通信運搬費		
K	印刷製本費	15	<p>■ラウンドテーブルチラシ 5,000円 A4カラー片面3,000枚 ■資料コピー 10,000円</p>
L	物品費	16	<p>■文具類 10,000円 ■コピー用紙300円×20=6,000円</p>
M	使用料	42	<p>■ラウンドテーブル会場費 40,000円 10,000円×4回=40,000円 ■プロジェクター借入 300円×4回=1,200円</p>
N	保険料		
O	一般管理経費 (諸経費)	154	直接事業費 1,545,000円の10%
P	事業費総額 (FからOまでの合計)	1699	

事業概要書（2年目）

実施年度	平成31年度
団体名	特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎
提案事業の名称	「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり
提案事業の目標 （目標値等）	<p>【2年目の目標】</p> <p>1) 1年目で関係構築した地元住民や下寺尾官衙遺跡群に対して興味・関心を持つ層の思いやスキルをぶつけ合い、当該遺跡に対する愛着を醸成する。</p> <p>2) 本協働推進事業の成果も含め、遺跡まちづくりの情報をより多くの市民や来訪者に伝える。</p>
事業の概要	<p>■プロジェクト_3 遺跡ハッカソン【主担当：UDCC+社会教育課+外部専門家】</p> <p>プロジェクト_2で関係を構築したステークホルダー（高校生、IT技術者、アーティスト、地元キーマンを想定）を一堂に集めて、短期合宿型アイデア会議「遺跡ハッカソン」を実施し、遺跡まちづくりに対するアイデアの提案を行う。期間は、9月中の3日間を想定している。</p> <p>※ハッカソンとは一般的に、様々なバックグラウンドの参加者が2-3日間の短期合宿を行い、個々の思いやスキルをグループ内でぶつけ合い、新たなアイデアを提案するというものである。</p> <p>■プロジェクト_4 遺跡まちづくりウィーク【主担当：UDCC+社会教育課+首都大学東京】</p> <p>期間を限定し、将来整備予定の「ガイダンス施設」の実験的設置を行う。コンテンツは、本協働推進事業の成果、遺跡調査の結果などが想定される。また、この遺跡まちづくりウィーク内で、プロジェクト_3で提案されたアイデアの一部を実現する。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">プロジェクト_4 遺跡まちづくりウィーク</p> <p style="text-align: center;">プロジェクトの実践（社会実験）</p> <p style="text-align: center;">ガイダンス施設（現地）の試験設置</p> <p style="text-align: center;">将来ビジョンの構築</p> <p style="text-align: center;">アイデア/プロジェクトのとりまとめ</p> <p style="text-align: center;">プロジェクト_3 遺跡ハッカソン </p> <p style="text-align: center;">アイデア持ち寄り</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div> 北陵高校生 教員/卒業生</div> <div> 民間企業技術者</div> <div> アーティスト デザイナー</div> <div> 近隣住民 大学・市民団体</div> </div> </div>

2019年度

事業スケジュール	2019年4月	1年目のレビュー、2年目キックオフ（事業内容の確認）
	2019年5月～8月	プロジェクト_3 遺跡ハッカソン準備
	2019年9月	プロジェクト_3 遺跡ハッカソン
	2019年10月～2020年2月	プロジェクト_4 遺跡まちづくりウィーク準備
	2020年3月	プロジェクト_4 遺跡まちづくりウィーク 事業の総括
提案事業終了後の事業展開	<p>遺跡まちづくりを持続的に進めていくために、以下の3点が想定される。</p> <p>第一に、プラットフォームとなる組織の構築であり、これは既存のまちぢから協議会や七堂伽藍跡建碑60周年記念事業実行委員会等が母体となることが想定される。</p> <p>第二に、小さなプロジェクトの実践であり、最終的な史跡公園整備に向けて、活用のイメージを共有するための社会実験やイベントなどを実施していく。</p> <p>第三に、香川、下寺尾に加えて、みずき、堤などのエリアを含めた広域的なまちづくりに展開する（散策路の整備、案内板の設置等）</p> <p>このような展開のなかで、UDCCは外部専門家とのネットワークを活かしながら、事業の事務局的作用や、支援を必要としている地縁組織のコンサルティング等に関わっていくことを想定している。</p>	

収支計画書（2年目）

団 体 名	特定非営利活動法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎
提 案 事 業 の 名 称	「下寺尾官衙遺跡群」遺跡まちづくり

（収入）

	区 分	見積額 (単位：千円)	内訳（積算根拠）
A	茅ヶ崎市負担金	2500	
B			
C			
D			
E	合 計 (AからDまでの合計)	2500	

（支出）

	区 分	見積額 (単位：千円)	内訳（積算根拠）
F	人 件 費	1130	<ul style="list-style-type: none"> ■ハッカソン事前準備 44,000円 内訳：資料作成 1,500円×4h×2人=12,000円 資料印刷等1,000円×4h×3人=12,000円 進行打合せ1500円×4h×2人=12,000円 1,000円×4h×2人=8,000円 ■ハッカソン実施 300,000円 内訳：20,000円×3日×2人=120,000円 15,000円×3日×4人=180,000円 ■遺跡まちづくりウィーク事前準備 44,000円 内訳：資料作成 1,500円×4h×2人=12,000円 資料印刷等1,000円×4h×3人=12,000円 進行打合せ1500円×4h×2人=12,000円 1,000円×4h×2人=8,000円 ■遺跡まちづくりウィーク展示物等パネル制作 60,000円 1,500円×20h×2人=60,000円 ■遺跡まちづくりウィーク実施 280,000円 内訳：1,500円×56h×2人=168,000円 1,000円×56h×2人=112,000円 ■市と企画会議 120,000円 内訳：1,500円×2h×2人×12回=72,000円 1,000円×2h×2人×12回=48,000円 ■議事録作成 12,000円 1,000円×2h×1人×6回=12,000円 (企画会議の議事録。市と輪番) ■内部会議 120,000円 内訳：1,500円×2h×2人×12回=72,000円

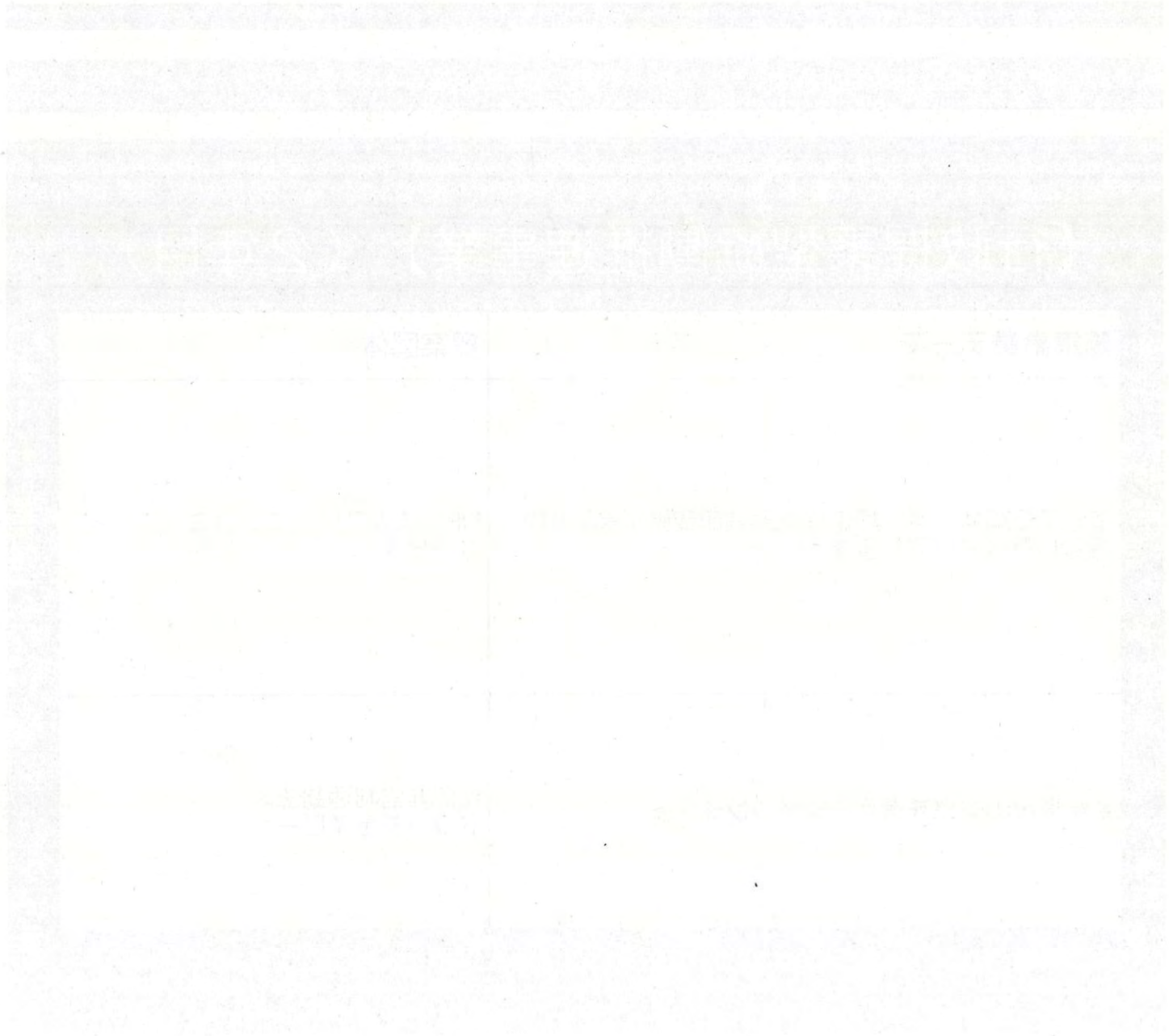
			<p>1,000円×2h×2人×12回=48,000円</p> <p>■ブログでの情報発信 30,000円</p> <p>1,500円×2h×1人×10回=30,000円</p> <p>■2カ年の事業報告書作成 120,000円</p> <p>1,500円×40h×2人=120,000円</p>
G	委託費	699	<p>大学研究室へ業務委託 (プロジェクト4 遺跡まちづくりウィーク) 概要書1ページ参照</p> <p>■社会実験実施 400,000円 (100,000円×4)</p> <p>■展示物等パネル制作 160,000円</p> <p>■パネル印刷用紙、トナー等 50,000円</p> <p>■レポート作成 45,000円</p> <p>■旅費交通費 43,800円</p> <p>南大沢一茅ヶ崎: 1,460円×10回×3人=43,800円</p>
H	謝金	150	<p>■講師謝礼 150,000円×1人 (会議での助言 10,000円×5回+ハッカソン運営支援30,000円×3日+ 総括10,000円)</p>
I	旅費交通費	3	<p>■大学での打合せ 1,460円×1人×2回=2,920円</p>
J	通信運搬費		
K	印刷製本費	150	<p>■遺跡まちづくりウィークのチラシ・プログラム (4,000部) 50,000円</p> <p>■2カ年の事業報告書 (200部) 100,000円</p>
L	物品費	30	<p>■ハッカソン文房具類 30,000円</p>
M	使用料	111	<p>■ハッカソン会場費 10,000円×3日=30,000円</p> <p>■イベント用テントレンタル 50,000円</p> <p>■プロジェクター借入 300円×10回=3,000円</p> <p>■ウィーク会場費 (下寺尾自治会館) 28,000円 4,000円×7日=28,000円</p>
N	保険料		
O	一般管理経費 (諸経費)	227	直接事業費 2,273,000円の10%
P	事業費総額 (FからOまでの合計)	2500	

No.	Date	Particulars	Debit	Credit
1	1950	...		
2	1950	...		
3	1950	...		
4	1950	...		
5	1950	...		
6	1950	...		
7	1950	...		
8	1950	...		
9	1950	...		
10	1950	...		
11	1950	...		
12	1950	...		
13	1950	...		
14	1950	...		
15	1950	...		
16	1950	...		
17	1950	...		
18	1950	...		
19	1950	...		
20	1950	...		
21	1950	...		
22	1950	...		
23	1950	...		
24	1950	...		
25	1950	...		
26	1950	...		
27	1950	...		
28	1950	...		
29	1950	...		
30	1950	...		
31	1950	...		
32	1950	...		
33	1950	...		
34	1950	...		
35	1950	...		
36	1950	...		
37	1950	...		
38	1950	...		
39	1950	...		
40	1950	...		
41	1950	...		
42	1950	...		
43	1950	...		
44	1950	...		
45	1950	...		
46	1950	...		
47	1950	...		
48	1950	...		
49	1950	...		
50	1950	...		

平成30年度に2年目として実施する事業

【行政提案型協働推進事業】（2年目）

募集事業テーマ	提案団体
市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業	NPO法人スリーエフコミュニティサービス
茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト	特定非営利活動法人 ドットジェイピー



行政提案型1 市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業
(NPO法人スリーエフコミュニティサービス)

協働事業評価書

事業名	市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業
団体名	NPO法人スリーエフコミュニティーサービス
担当課名	文化生涯学習課

目標の設定

事業実施前に、事業の実施により達成する目標や、受益者評価の目標を設定してください

成果目標 各項目については、実施団体と担当課が協議の上で決定してください。

目標とする成果（何がどう変化することを目指すのかを記入してください。）

文化会館の改修工事期間の何も無い仮囲いの壁面に、市民の方の写真や子ども達のワークショップや、茅ヶ崎ゆかりのアーティストの作品を展示する空間に変える。市民の参加者と茅ヶ崎ゆかりのアーティスト共に作品を制作し、茅ヶ崎市民文化会館のPR及び茅ヶ崎ゆかりのアーティストのPRにつなげる。

活動指標(サービスやイベントなどの実施内容)	対象者等	目標値	結果
ワークショップの実施、写真コンテストの実施、壁面アート展示	市民	3回	3回実施

受益者評価の目標値

評価手法	対象者等	目標値
ワークショップ参加者のアンケート調査	子ども達	満足度 90%以上

受益者評価ができない場合、その理由を記入してください。

--

中間評価

中間評価

各項目の評価

下記の評価項目について、1点から5点の評価または、設問に沿ったコメントを記入してください。

評価得点の目安



- 5点・事業実施前の想定をはるかに良い方向に上回った
- 4点・事業実施前の想定をやや良い方向に上回った
- 3点・事業実施前に想定した範囲の評価であった
- 2点・事業実施前の想定より評価がやや低いと感じられた
- 1点・事業実施前の想定より評価がはるかに低いと感じられた

協働プロセス

相乗効果	評価点数・団体	評価点数・行政
1. それぞれが単独で行うよりも大きな効果を得ることができていますか	5	5
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入

事業内容の評価

事業の進捗状況	評価点数・団体	評価点数・行政
1. 事業は計画通りに進捗しているか	3	3
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
1点及び2点と評価した場合、理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください

事業手法の妥当性	評価点数・団体	評価点数・行政
3. この事業を協働という事業手法で行うことが最善であると感じましたか	5	5
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください
	お互いに自分達では動けない、動かせない部分を補う形が正に協働と感じたため。	アーティストのネットワークやセンスに負う部分が大いいため。

事業手法の妥当性	評価点数・団体	評価点数・行政
4. 事業を実施する事により市民の満足度は高めることができそうと感じますか	4	4
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください
	茅ヶ崎はアートに興味がある人が多いにも関わらず、アートと触れ合う機会がなかなかない。こういった協働事業をすることは、市民にとっても、行政にとっても、茅ヶ崎というまちをもっと楽しく面白くする。	ワークショップの参加者の満足度が予想以上に高かった。

平成30年度実施協働推進事業 事業概要書

実施年度	平成30年度
団体名	NPO法人スリーエフコミュニティーサービス
提案事業の名称	市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業
これまでの経過 (活動経過等)	平成29年度よりスタートした。キックオフイベントとして文化会館の改修前の内部壁面にアートを施した。7月以降に一般募集への写真募集及び子供向けワークショップを実施。10月～11月の仮囲いアートお披露目に向け業務を進めている。
現状の課題	市民文化会館のリニューアルオープンに向けた市民文化会館のPR及び茅ヶ崎ゆかりのアーティストのPR
事業の目的	<p>平成29年度に茅ヶ崎市は市制70周年を迎え、昭和55年から開館してきた茅ヶ崎市民文化会館は平成29年3月から平成30年9月までの期間、耐震補強・改修工事実施のため全館休館となる。平成30年度は茅ヶ崎市にとっても、茅ヶ崎市民文化会館にとっても、これまでの記憶を留めながら未来に向かって羽ばたくための大切な年であると言える。</p> <p>茅ヶ崎市文化生涯学習プランでは、文化会館事業を施策の方向の「文化芸術に親しむ機会の提供」と位置付けて事業を推進してきたが、この改修工事期間を空白期間とするのではなく貴重な時間と捉え、茅ヶ崎の文化の発信拠点として活用していくため、本事業を提案する。</p> <p>本事業を市民協働で行い、多くの市民が参加することで市の施策としての「発表の場の充実」や「文化に携わる人材育成などを支援する環境の整備」に寄与することも期待できる。</p>
提案事業の目標 (目標値等)	【2年目の目標】 1年目の事業の成果を展示などの手法でPRする。
2年目の提案事業の概要	1年目に行った壁面アートやメモリアルグッズの製作などの成果物について、PRする展示を行う。展示をきっかけに新しくなる市民文化会館のPRを行うとともに茅ヶ崎ゆかりのアーティストのPRを行う。
事業の対象	ただ仮囲いのデザインをした、廃材のリプロダクトをしたというだけでなく、茅ヶ崎市が文化会館を未来に向かって、市民アーティスト、クリエイターと共に成長して育てていくような、より魅力的な文化会館としていきながら事業を進める。
協働の必要性	市の役割と団体の役割を相互理解、共有し、この事業を協働で実施することにより、文化会館をより素晴らしい場所としていくため協働で実施する必要性は高い。目的遂行のため、事業の実施が官民連携であるということを市民に広く認知することで、魅力的な事業運営をすることができる。

協働による 相乗効果	担当課の課題と当団体の認識を共有することに努めることで、文化会館を広く市民に浸透させることができ、市民に愛着が生まれ文化会館の活性化につながる可能性がある。行政提案型事業が、単に改修工事期間中の時間を利用したというだけのものではなく、実施した事業の効果が将来的に、茅ヶ崎の魅力度アップにつながる。
市民活動としての 特 性	NPO法人3F Community Serviceは、「アーティスト・クリエイターによるまちづくりNPO法人」として、5事業を展開しており、15業種13名のメンバーが在籍、多種多様な知見と実働が可能。日本のNPOでも珍しい、アーティスト・クリエイターを主体としたNPOとして、注目を集めている。
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割 定例打ち合わせの実施 内部会議の実施 ラフデザイン会議：アーティスト・クリエイターとの打ち合わせ 事業実施、着手</p> <p>2 市に期待する役割 定例打ち合わせの実施 事業の告知 展示スペースの確保</p>
事業実施体制	事業総責任者 1名 事業PM 1名 プロダクトコーディネーター 1名 フォトグラファー 1名 WEB制作者 1名 事務局 1名
事業スケジュール	4月：打ち合わせ・事業スケジュール作成 5月：仮デザイン打ち合わせ 6月～8月：公共スペースを活用したメモリアル事業・ゆかりのアーティストPR 展示 9月：リニューアルオープン

平成30年度実施協働推進事業 収支計画書

団 体 名	NPO法人スリーエフコミュニティーサービス
提 案 事 業 の 名 称	市制70周年 茅ヶ崎市民文化会館改修工事期間を活用したメモリアル事業

(収入)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A 茅ヶ崎市負担金	226	
B 3F負担金	2	
C		
D		
E 合計 (AからDまでの合計)	228	

(支出)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F 人 件 費	228	事業総責任者賃金 2500円/h×2h/月12ヶ月＝ 60,000円 事業PM 2000円/h×2h/月12ヶ月＝ 48,000円 プロダクトコーディネイター 2000円/h× 2h/月12ヶ月＝ 48,000円 WEB制作：2000円/h×1h/月12ヶ月＝ 24,000円 事務局賃金：1000円/h×4h/月12ヶ月＝ 48,000円
G 謝 金		
H 旅 費 交 通 費		
I 通 信 運 搬 費		

J	印刷製本費		
K	物品費		
L	賃借料		
M	保険料		
N	一般管理経費 (諸経費)		
O	事業費総額 (FからNまでの合計)	228	

行政提案型2 茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト
(特定非営利活動法人ドットジェイピー)

協働事業評価書

事業名	茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト
団体名	特定非営利活動法人ドットジェイピー
担当課名	企画経営課

目標の設定

事業実施前に、事業の実施により達成する目標や、受益者評価の目標を設定してください。

成果目標 各項目については、実施団体と担当課が協議の上で決定してください。

目標とする成果 (何がどう変化することを指すのかを記入してください。)

出場する若者たちが自ら茅ヶ崎市の政策や予算を考え、立案することで、行政や政治への関心を高める。

活動指標 (サービスやイベントなどの実施内容)	対象者等	目標値	結果
■魅力的なイベント等の実施 ・キックオフイベントの開催 ・まち歩きイベントの開催 ・中間チェックイベントの開催 ・決勝イベントの開催 ・出場者との週1回程度のレポートの受信・返信	18歳以上24歳以下の茅ヶ崎市および近隣に在住・在学・在勤の方	出場者50名 政策立案数10政策	出場者41名 政策立案数10政策

受益者評価の目標値

評価手法	対象者等	目標値
アンケート	コンテスト出場者	行政や政治に対して関心が高まったと回答した人数の割合80%
-	-	-

受益者評価ができない場合、その理由を記入してください。

-

中間評価

中間評価

各項目の評価

下記の評価項目について、1点から5点の評価または、設問に沿ったコメントを記入してください。

評価得点の目安



- 5点・事業実施前の想定をはるかに良い方向に上回った
- 4点・事業実施前の想定をやや良い方向に上回った
- 3点・事業実施前に想定した範囲の評価であった
- 2点・事業実施前の想定より評価がやや低いと感じられた
- 1点・事業実施前の想定より評価がはるかに低いと感じられた

協働プロセス

相乗効果	評価点数・団体	評価点数・行政
1. それぞれが単独で行うよりも大きな効果を得ることができていますか	5 ↑ 1点から5点を記入	5 ↑ 1点から5点を記入

事業内容の評価

事業の進捗状況	評価点数・団体	評価点数・行政
2. 事業は計画通りに進捗していますか	3 ↑ 1点から5点を記入	3 ↑ 1点から5点を記入
1点及び2点と評価した場合、理由を記入してください→	-	-
	↑コメントを記入してください	↑コメントを記入してください

事業手法の妥当性	評価点数・団体	評価点数・行政
3. この事業を協働という事業手法で行うことが最善であると感じましたか	4 ↑ 1点から5点を記入	4 ↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	弊団体は政策コンテスト運営のノウハウは蓄積しているものの、茅ヶ崎市の市勢・行政の知見は不十分であった。協働で行うことで、出場者に円滑な運営と、十分な知識を提供することができる。	お互いの持つ強みを活かすこと。また、事業手法について知恵を出し合い、適宜協議を実施することで、事業の進行管理をより円滑に行うことができる。
	↑コメントを記入してください	↑コメントを記入してください

事業手法の妥当性	評価点数・団体	評価点数・行政
4. 事業を実施する事により市民の満足度を高めることができそうと感じますか	3 ↑ 1点から5点を記入	3 ↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	もう少し高い年齢の若年層にも参加ニーズがありそうなので、コンテスト設計細部は微調整を要する。	若者の行政への関心が高まること、まちの活性化につながると考える。結果、満足度は向上すると考える。
	↑コメントを記入してください	↑コメントを記入してください

平成30年度実施協働推進事業 事業概要書

実施年度	平成 30 年度
団体名	特定非営利活動法人ドットジェイピー
提案事業の名称	茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト事業
これまでの経過 (活動経過等)	<p>平成26年度と平成27年度に、茅ヶ崎市より市主催の政策コンテストの開催支援業務を受託。</p> <p>平成26年度は42人が9チームに分かれて出場、平成27年度は53人が10チームに分かれて出場した。</p> <p>また、他市での政策コンテスト開催支援を含めると15自治体で21回の運営に携わってきた。</p> <p>平成29年度に茅ヶ崎市市民協働推進事業として本事業を開催し、45名のエントリーで、11チームの参加を得た(ただし学業の都合により、やむを得ず4名1チームが決勝を棄権する予定である)。</p>
現状の課題	<p>若年層に向けて社会教育プログラムを提供する弊団体として、茅ヶ崎市における若年層と行政の関わりについて、茅ヶ崎市での運営時の実感、および「平成27年度 茅ヶ崎市のまちづくりの満足度調査結果報告書」の結果を鑑みて、下記を課題と認識している。</p> <p>▼課題1 若年層の市政への関心が薄い</p> <p>「平成27年度 茅ヶ崎市のまちづくりの満足度調査」において、市政への関心を問う設問に対し、若年層では「あまり関心がない」への回答が、他の年代層より突出して多い。</p> <p>また、市政情報の入手経路に関する設問に対し、若年層では「(そもそも)知りたいと思うことはない」の回答が、他の年代層より突出して多い。</p> <p>更に、まちづくり政策や行政サービスに関する幾つかの設問に対し、若年層では「わからない」の回答が、他の年代層より突出して多い。これは、判断材料となる知識が乏しいためと考えられる。</p> <p>▼課題2 若年層の人口流出が進む可能性が高い</p> <p>同調査において、茅ヶ崎市に住み続けるかを問う設問に対し、若年層では「将来はわからない」「市外に移り住みたい」の回答の合計が80%を超えており、若年層の将来の人口流出が進む可能性が高い。</p>
事業の目的	<p>【事業提案の背景】</p> <p>上述のように、茅ヶ崎市の若年層の80%が移住の可能性を認めている。彼らが茅ヶ崎市に居続け、更に市政やまちづくりに参画を促すためには、茅ヶ崎市の地域特性、市民の意識、行政の計画や方針について良く学び、自分自身と市の未来を重ね合わせて考える機会を、適切なプログラムと共に提供することが有効と考える。</p>

	<p>また、若年層の社会増を維持していくためには、市外の若年層に対しても、実際に茅ヶ崎市に訪れ、地域特性を深く知り、茅ヶ崎市に住んでいる自分をイメージしていただくような機会を創る必要がある。</p> <p>【事業の目的】</p> <p>▼ 目的1 若年層のまちづくり参画促進</p> <p>茅ヶ崎市の若年層から、茅ヶ崎市のまちづくりにボランティア的に、また公務員等として職業的に関わる者をより多く創出する。</p> <p>▼ 目的2 有効な政策アイデアの抽出</p> <p>茅ヶ崎市の若年層から、現実の政策に反映されるべき、茅ヶ崎市民にとって有益なアイデアを抽出する。</p> <p>▼ 目的3 若年層の移住定住促進</p> <p>茅ヶ崎市の若年層が、茅ヶ崎市により強い愛着を持ち、茅ヶ崎市への永住や移住を検討する者をより多く創出する。</p>
<p>提案事業の目標 (目標値等)</p>	<p>【2年目の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出場者約55名に、11組程度のチームとして参加いただくことを目指す。 ・上記11組程度のそれぞれから政策提案を発表いただくことを目指す。
<p>2年目の提案事業の概要</p>	<p>基本的には、初年度の事業内容を継続的に行い、茅ヶ崎市の若年層に、政策コンテストの存在を認知していただき、定住への関心、まちづくりへの関心をより強くもっていただく。</p> <p>【コンテストの開催時期について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月～11月の間で約2ヶ月間をかけて行う。 <p>【コンテスト出場者募集について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市および近隣に在住・在学・在勤の、若者55人を出場者として募集する。55人は4～5名程度のチーム約11組として出場する。 ※平成30年度においては、より積極的に高校生・社会人を募集する方向で弊団体と企画経営課で協議する。 ・募集は茅ヶ崎市が行い、弊団体が大学生ボランティアの人脈を用い、募集の補助業務を行う。 <p>【コンテストの課題について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は以下の3要素からなるプランの立案とする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 茅ヶ崎市の目指すべき平成42年の将来像 ② 将来像実現の為に5年後から着手する政策 ③ その政策を含む茅ヶ崎市の5年後の予算案

- ・2年目の試みとして「茅ヶ崎ならではの」「若者ならではの」のプランが出やすいように課題を絞り込むためのテーマを設ける。テーマについては弊団体と企画経営課で別途協議する。

※テーマの想定例

「湘南地域で都市間競争を勝ち抜くために！」

- 湘南地域をテーマに取り入れることで、近隣市との「若者目線」での比較のうえ、「茅ヶ崎だから」こそその利点を打ち出した政策につながるのではないか。

「若者が「留まる」 若者が「集まる」まち 茅ヶ崎」

- 出場者自身と同世代の「若者目線で」、定住・移住したい「茅ヶ崎ならではの」のまちなみや暮らしを見出すことにつながるのではないか。

「茅ヶ崎 お・も・て・な・し 政策」

- 「若者らしい」おもてなしのあり方をどう捉え、「茅ヶ崎だからこそ」の手法でどう実現するか、交流人口拡大に資する政策につながるのではないか。

「魅せる！ ちがさきの新たな魅力大作戦！」

- 「若者にとって」魅力ある、既存の茅ヶ崎の特徴を見出したり、新たな特徴を創出したり、さらに「若者に訴求するように」どう魅せるかといった、シティーセールスに資する政策につながるのではないか。

「私が誇らしいまち 茅ヶ崎」

- 「若者にとっての」「まちの誇り」をどう捉え、他でもない「茅ヶ崎で」どのように実現していくか、シビックプライド醸成に資する政策につながるのではないか。

【コンテストのルールについて】

- ・コンテストの締めくくりに、一般市民から観覧者を募集して、決勝イベントを開催する。
その決勝イベントで、各チームそれぞれが観覧に来た市民に向けて、10分間のプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンテーションを観覧した市民の投票によってのみ、最優秀チームを決定する。

【コンテストの会期中の流れについて】

- ・コンテスト開始時の休日に、キックオフ会（出場チーム合同勉強会）を行う。
キックオフ会の主な内容は以下。
 - － 地域活性化専門家による、プラン完成までの進め方の講義。
 - － 市職員による、市の行財政に関する講義。
 - － プラン立案の演習。
- ・キックオフ当日、または別の日程で、出場者と協議の上コースを決定し、まち歩きイベントを行う。



	<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以後は約2ヶ月間に渡って、全チームそれぞれが独自に週1回程度の会議や、文献調査および街歩き等の現地調査～創案～資料作成を行う。 ・コンテスト開始から約1ヶ月後の休日に、中間チェックイベントを行い、他チームに向けての中間報告、市職員からの対面によるアドバイスを行う。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテスト開始から約2ヶ月後の休日、上述の決勝イベントを行い、最優秀チームを決定する。 <p>【コンテスト期間中の出場チームへの補助について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キックオフ会において、以下の資料を提供する。 <ul style="list-style-type: none"> － 演習問題や行財政の基礎知識を記した記入式の参考書。 － 茅ヶ崎市の基本計画パンフレットや行財政に関する資料。 － そのほか必要な諸資料。 ・各チームに対して、弊団体の大学生ボランティアスタッフが、補助役を担当する。補助役スタッフは以下の業務を行う。 <ul style="list-style-type: none"> － 提出物の期限、指示日程などの事務連絡。 － 文献調査・現地調査～創案～資料作成までの進捗確認。 － ルール上の不明点や、困り事全般への相談窓口。 ・コンテスト開始から1ヶ月後ごろを目処に中間チェックイベントを行い、市職員と面会し、直接アドバイスをいただく機会を設ける。
事業の対象	<p>【コンテストの出場者（チーム）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市および近隣に在住・在学・在勤の、16歳～29歳までの若者 55名。 ・4～5名程度を一組としたチーム11組程度としての出場を想定。 <p>【決勝イベントの観覧者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の方も、市外の方も、年齢性別等に制限なく募集。
協働の必要性	<p>【弊団体の知見・人員を活用いただく必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弊団体には、平成28年度までに茅ヶ崎市での2回の開催を含む15自治体で21回の政策コンテスト運営経験があった。よって、出場者に配布する参考書の原稿、配布物の書類様式など、予め数多くの資料を保有している。これらを活用することで、市単独では為しえない品質で、政策コンテストを開催できる。 ・弊団体には出場者と同年代の、大学生を中心とした若いボランティアスタッフが多数いる。彼らボランティアスタッフが以下の活動を担うことで、市単独で運営する場合以上に、円滑に政策コンテストを開催できる。

	<ul style="list-style-type: none"> － 市外からの出場者募集。 － 同年代として出場チームと目線を同じくする担当相談窓口。 － 催事の現場運営。 <p>【委託事業として実施した際に上がった問題の改善にむけた必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弊団体は全国的に活動を展開する一方、必ずしも茅ヶ崎に強い地の利を持つとは言えず、市内からの出場者が少なかった。 平成27年度は、市内在住・在学・在勤の方は全出場者の1/4に止まった。協働とすることで、茅ヶ崎市が自ら主体となつての募集活動も可能となり、この点の改善が見込まれる。 ・出場チームには自ら市内の公共施設等を訪れて関係者の話を聞いたり、駅頭でアンケートを行うチームもあるが、全般的には茅ヶ崎市に関する知識・知見が不十分である。 協働とすることで、茅ヶ崎市職員と出場チームの間により濃密かつ直接的なコミュニケーションも可能となり、この点の改善が見込まれる。
協働による 相乗効果	<p>【より多くの市内在住・在学・在勤の出場者獲得の効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託ではなく協働とすることで、より強力に市内に在住・在学・在勤の若者に対して募集活動を行うことができる。 市内の学校や諸団体に対する募集活動においても、市側からより早い段階でのお声がけが可能になる。 ・弊団体との協働により、委託した際と同様に、弊団体が市外の大学生を中心とした若者との人脈を活用して、市外からの出場者募集ができる。 <p>【より高品質でのコンテスト運営が可能になる効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弊団体との協働により、委託した際と同様に、政策コンテストに関する弊団体の参考書、催事運営マニュアルや配布物の書類様式、指導のノウハウ、人員を活用できる。 ・委託ではなく協働とすることで、出場チームがより積極的かつ直接的に市職員とコミュニケーションを取り、市政のみならず市職員の仕事内容にまで関心を抱くことが期待できる。
市民活動としての 特性	<p>【団体の概要】</p> <p>ドットジェイピーは、若年投票率の向上を目標に活動するNPO法人。平成18年創業、20年にNPO法人化。全国15支部で約400人の大学生スタッフが中心となり、春期（2月～3月）と夏期（8月～9月）の年2回、学生を対象とした、首長・地方議員・国会議員・在日海外公館でのインターンシッププログラムを提供し、また若年層向け政策コンテストを実施してきた。</p> <p>これまでのインターンシッププログラム参加者数は、議員事務所のべ8,029事務所、大使館など75機関、学生のべ21,289名（※2016.4.1.現在）。</p> <p>また、楽天などWEBメディアへの政治情報の提供や、Googleインパクトチャレンジ賞を受賞した「政治資金透明化プロジェクト」の事務局運営、コ</p>

	<p>ミック・書籍の監修・協力、公共セクターや民間企業との協働による様々な若年投票率向上のための啓発キャンペーンやイベントなど、多岐に渡る活動で若者への働きかけを行っている。</p> <p>なお、ドットジェイピーは中立的な団体であり特定の政党を支持していない。</p> <p>【本事業と関連する事業の実績】</p> <p>平成22年より9回の全国規模の政策コンテストを主催し、累計参加者数約1200名、同観覧者数2,900名、総務省・内閣府・財務省ほか11以上の省庁から後援をいただいた。</p> <p>平成24年より自治体ごとの政策コンテストの企画運営も開始、平成29年までに茅ヶ崎市での3回の開催を含む、17自治体で25回開催した。</p> <p>独自に作成した記入式の参考書、各種配布物の書類様式、細かい運営ノウハウなど、政策コンテスト運営に関する様々な知見を有する。</p> <p>これまで開催場所となった自治体は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 千葉県 流山市・習志野市・成田市・浦安市 － 奈良県 奈良市 － 宮城県 仙台市・石巻市 － 神奈川県 鎌倉市・茅ヶ崎市 － 茨城県 笠間市 － 東京都 稲城市 － 新潟県 上越市 － 富山県 富山市・氷見市 － 三重県 松阪市 － 滋賀県 湖南市 － 香川県 高松市
協働の役割分担	<p>【1：提案団体が果たそうとする役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策コンテスト全体の設計たたき台のご提供、担当課との協議 ・出場者募集要項のたたき台ご提供、担当課との協議 ・市外からの出場者募集 ・キックオフ会、決勝の運営計画たたき台のご提供、担当課との協議 ・キックオフ会、決勝の現場運営 ・期間中のお出場チーム補助計画のたたき台のご提供、担当課との協議 ・期間中のお出場チーム補助（事務連絡、資料や情報提供、相談窓口） ・出場者に配布する参考書のご提供、各種配布物の電子データご提供 <p>【2：市に期待する役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内出場者の募集 ・キックオフ会、決勝の会場の提供 ・茅ヶ崎市の行財政に関する講義 ・茅ヶ崎市の行財政に関する資料提供 ・茅ヶ崎市の行財政に関する質問への回答 ・出場チームのプランに対する様々なアドバイス

	<ul style="list-style-type: none"> ・決勝を観覧いただく一般市民の募集 ・決勝時の茅ヶ崎市長からのご講評や公開パネルディスカッションのご登壇
事業実施体制	<p>【統括責任者】</p> <p>NPO法人ドットジェイピー 事務局長 松永英也</p> <p>【現場責任者】</p> <p>NPO法人ドットジェイピー コンテスト運営事業部長 秋本独人</p> <p>【出場者募集、催事現場運営、出場チーム補助ほか】</p> <p>NPO法人ドットジェイピー コンテスト運営事業部長 秋本独人 NPO法人ドットジェイピー コンテスト運営事業部 山本敏治 NPO法人ドットジェイピー アルバイトスタッフ NPO法人ドットジェイピー 大学生ボランティアスタッフ（10名）</p> <p>【参考書、配布書類様式等の電子データご提供】</p> <p>NPO法人ドットジェイピー</p>
事業スケジュール	<p>5月 募集要項策定／募集開始（平成29年度より早い募集開始を想定）</p> <p>8月 募集終了</p> <p>9月 コンテスト会期開始／キックオフイベント、まちあるきイベント</p> <p>10月 中間チェックイベント</p> <p>11月 決勝イベント（コンテスト会期終了）</p> <p>12月 事業報告書 提出</p>

平成30年度実施協働推進事業 収支計画書

団 体 名	特定非営利活動法人ドットジェイピー
提 案 事 業 の 名 称	茅ヶ崎市の未来を考える政策コンテスト事業

(収入)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A 茅ヶ崎市負担金	1,500	
B		
C		
D		
E 合 計 (AからDまでの合計)	1,500	

(支出)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F 人 件 費	1,256	プログラム設計 1,040円 × 2人 × 80時間 イベント設計 1,040円 × 2人 × 80時間 出場者配布参考書作成 1,040円 × 2人 × 120時間 募集チラシ原稿作成 956円 × 1人 × 15時間 出場者募集フォーム作成 956円 × 1人 × 1時間 出場者募集活動 1,040円 × 2人 × 100時間 出場者募集活動輔佐 956円 × 1人 × 30時間 キックオフ会投影・配布資料作成 キックオフ会当日運営 1,040円 × 2人 × 16時間 キックオフ会当日運営 1,040円 × 1人 × 5時間 出場者補助 1,040円 × 2人 × 120時間 出場者補助輔佐 956円 × 1人 × 50時間 決勝投影・配布資料作成 1,040円 × 2人 × 24時間 決勝当日運営 1,040円 × 2人 × 8時間 報告書作成費 956円 × 1人 × 20時間
G 謝 金	20	講師費 10,000円 × 1人 × 2回
H 旅 費 交 通 費	76	職員打合せ交通費 1,940円 × 1人 × 3回 キックオフ・決勝のボランティア交通費 1,000円 × 10人 × 2回 告知・募集活動のボランティア交通費 1,000円 × 5人 × 10回
I 通 信 運 搬 費		
J 印 刷 製 本 費	15	募集チラシ印刷費 @5円 × 3000部
K 物 品 費		
L 賃 借 料		
M 保 険 料		
N 一 般 管 理 経 費 (諸 経 費)	133	直接事業費の10%以内
O 事 業 費 総 額 (FからNまでの合計)	1,500	

【市民提案型協働推進事業】（2年目）

提案事業名	提案団体
ハマミーナ魅力UP大作戦	特定非営利活動法人 まちづくりスポット茅ヶ崎
防災への動画活用	特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット
中学生への学習支援事業 一わかる喜びを、生きる力に一	こども応援丸

Date	Description
1950-01-01	Initial deposit of \$1000.00
1950-03-15	Withdrawal of \$250.00 for office expenses
1950-06-01	Deposit of \$500.00 from client X
1950-08-20	Final balance of \$1250.00

市民提案型1 ハマミリーナ魅力UP大作戦
(特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎)

協働事業評価書

事業名	ハマミーナ魅力UP大作戦
団体名	特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎
担当課名	文化生涯学習課・福祉政策課

目標の設定

事業実施前に、事業の実施により達成する目標や、受益者評価の目標を設定してください

成果目標

各項目については、実施団体と担当課が協議の上で決定してください。

目標とする成果（何がどう変化することを目指すのかを記入してください。）

市民と行政が連携し、より使いやすく愛される施設に！
6課（市民課、保育課、文化生涯学習課、福祉政策課、高齢福祉介護課、図書館）にまたがる複合施設への市民（＝来館者）からの声・問合せ・提案内容を6課と共有し実現することにより、施設の利便性を高める。

活動指標（サービスやイベントなどの実施内容）	対象者等	目標値	結果
ハマミーナ総合案内（平日9:00～17:00） ハマミーナ探検隊 ハマミーナ交流会	市民	246日 1回 2回	

受益者評価の目標値

評価手法	対象者等	目標値
ハマミーナ総合案内における情報提供件数	市民（来館者）	3,600件/年
アンケート	市民	「総合案内が利用しやすくなった」人の割合が80%以上。 「ハマミーナを利用する頻度が増えた」人の割合が70%以上。

受益者評価ができない場合、その理由を記入してください。

--

中間評価

中間評価

各項目の評価

下記の評価項目について、1点から5点の評価または、設問に沿ったコメントを記入してください。

評価得点の目安



- 5点・・・事業実施前の想定をはるかに良い方向に上回った
- 4点・・・事業実施前の想定をやや良い方向に上回った
- 3点・・・事業実施前に想定した範囲の評価であった
- 2点・・・事業実施前の想定より評価がやや低いと感じられた
- 1点・・・事業実施前の想定より評価がはるかに低いと感じられた

協働プロセス

	評価点数・団体	評価点数・行政
相乗効果	3	3
1. それぞれが単独で行うよりも大きな効果を得ることができていますか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入

事業内容の評価

	評価点数・団体	評価点数・行政
事業の進捗状況	3	3
1. 事業は計画通りに進捗しているか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
1点及び2点と評価した場合、理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください

	評価点数・団体	評価点数・行政
事業手法の妥当性	4	3
3. この事業を協働という事業手法で行うことが最善であると感じましたか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください

	評価点数・団体	評価点数・行政
事業手法の妥当性	4	4
4. 事業を実施する事により市民の満足度は高めることができそうであると感じますか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください

平成30年度実施協働推進事業 事業概要書

実施年度	平成30年度
団体名	特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎
提案事業の名称	ハマミーナ魅力UP大作戦
これまでの経過 (活動経過等)	平成27年3月 法人設立 平成27年4月 交流スペース「まちスポ茅ヶ崎」を拠点に活動開始 平成28年8月 「しろやまフェスタ」合同開催(文化生涯学習課) 平成29年3月 イベントスペース「サンノイチ」OPEN 平成29年8月 「しろやまフェスタ」合同開催(文化生涯学習課)
現状の課題	<p>茅ヶ崎市浜見平に公共&商業施設『BRANCH茅ヶ崎』がオープンして約2年半が経ちました。特に子どもからシニアまで幅広い世代が利用する公共施設部分『ハマミーナ(市南西部複合施設)』は、生活・防災の拠点として、主に近隣で生活する市民に愛されています。 ※市南西部…浜見平、南湖、松尾、中島、柳島</p> <p>ハマミーナ *平成27年4月OPEN</p> <ul style="list-style-type: none"> ■1階 総合案内、茅ヶ崎市役所ハマミーナ出張所、情報展示室、茅ヶ崎市立浜見平保育園、ボランティアセンター湘南「ハート&ハート」、湘南地区地域包括支援センターすみれ、福祉相談室すみれ ■2階 ハマミーナまなびプラザ(受付・会議室・調理室・音楽室・フリースペース)、ハマミーナ図書室、茅ヶ崎市立浜見平保育園地域育児センター ■3階 ハマミーナまなびプラザ(体育室) <p>事業提案時(平成28年10月)の市民の声</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『総合案内』にて施設内のイベント情報や周辺情報を質問しても満足な回答が得られにくい。 2. 市民が『ハマミーナまなびプラザ(会議室・調理室・音楽室・体育室)』にて不特定多数の市民を対象に開催するイベント等を企画しても告知できるスペースがなく、紙媒体での情報を受発信することが難しい。 3. 場のポテンシャルを秘めている『情報展示室』について、市民のための効果的な活用方法を検討・提案・実施することは、個人や団体単独では限界がある。 <p>事業開始時(平成29年4月)から現在(平成29年10月)までの対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域とのネットワークづくりや施設内各フロアとの連携を深めて常に最新情報を収集し、『総合案内』における施設内イベント情報および周辺施設や開発計画等に関する情報提供力を高めた。 2. 『総合案内』に新たにイベントボードを設置し、ハマミーナまなびプラザ利用イベント告知に関する情報受発信の場を拡充した。 3. 利用者同士が連携や施設活用に向けて、情報交換・交流する場『ハマミーナ探検隊』、『ハマミーナ交流会』を企画した。

事業の目的	ハマミーナに関する情報発信と利用者同士の交流の場づくりを通じて市民自らが施設の魅力を発見するとともに、市民と行政が連携し、より使いやすく愛される環境を整える
提案事業の目標 (目標値等)	<p>【2年目の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ハマミーナ総合案内」業務を担い、ハマミーナや周辺施設に関する質の高い情報提供を行うとともに、ニーズを集計・分析する。 2. 「ハマミーナ探検隊」を年1回実施。参加者が見学を通じて施設の機能や魅力を発見し利用意欲を高め、利用登録・使用を促す。 3. 「ハマミーナ交流会」を年2回実施。利用者同士の連携を深めるとともに、満足度や愛着をさらに高めるための施策を検討する。
2年目の提案事業の概要	<p>作戦1. 「ハマミーナ総合案内」業務の実施 日時：通年（週5日×8時間 *土日・祝、年末年始除く243日間） 場所：ハマミーナ1階総合案内 内容：受付業務（問合せおよび相談対応、ニーズ集計や分析など） 情報提供（市政情報、ハマミーナまなびプラザ開催イベント、 周辺施設・開発計画等に関する情報提供など）</p> <p>作戦2. 「ハマミーナ探検隊」の実施 ■第2回 日時：8月中旬 10:00～12:00（予定） 場所：ハマミーナ 内容：全フロアの見学（各テナントより役割および機能紹介） *10名×2グループにて実施。前年度参加者2～3名が ガイド役を務める。「学びフェスタ」（文化生涯学習課主催事業）と連動して開催。（いずれも予定）</p> <p>作戦3. 「ハマミーナ交流会」の実施 ■第3回 日時：6月中旬 10:00～12:00（予定） 場所：ハマミーナ3階体育室 内容：「施設活用ゆるやか情報交換会part2」（仮） *テーマ別グループワーク</p> <p>■第4回 日時：9月上旬 10:00～12:00（予定） 場所：ハマミーナ3階体育室 内容：「施設活用ゆるやか情報交換会part3」（仮） *テーマ別グループワーク</p> <p>「ハマミーナ探検隊」 & 「ハマミーナ交流会」 共通 募集：20～30名程度 参加費：無料</p>

事業の対象	ハマミーナを利用している市民、これから利用したい市民
協働の必要性	<p>当法人は市南西部地域の交流拠点「まちスポ茅ヶ崎」の運営を通じて、各種問合せや相談に約30件/月以上対応の実績を有し、エンパワメント・コーディネート・マッチングするなど、情報提供および問合せ・相談対応に関するノウハウとスキルがあります。当事業では主にハマミーナにて行う生涯学習に関する事業など、市政情報を正確かつ魅力的に伝えるため、文化生涯学習課との協働が必要です。</p> <p>また当法人は対象に合わせた事業を約50回/年以上実施するなど、企画運営力に長けています。そして様々な立場の人が集まる会議の事務局を務めるなど、コーディネート能力もあります。文化生涯学習課と福祉政策課によるハマミーナ各フロア所管課との連絡調整力を併せることで、より効果的な事業実施が可能となります。</p> <p>さらに当法人は「まちぽっち通信」を毎月2,000部発行し、周辺エリア約100ヶ所にて配架しており、市南西部地域において情報発信力があります。行政の全市的な情報発信力と組み合わせることで、より広くハマミーナを周知することができます。</p>
協働による相乗効果	<p>市民参加型でハマミーナの魅力を高めるための施策を検討することで、公共施設の活用・成功モデルとして全市的に広がり、他エリアでの参考事例になる可能性が高いです。</p> <p>またハマミーナへの親しみや愛着の深まりから、施設全体の利用頻度の上昇を見込むことができます。</p> <p>さらに個人や団体、まなびの市民講師等の出会いと交流の場づくりによって、市南西部地域を中心に眠っている人材・技術の発掘が期待できる他、文化生涯学習プラン重点戦略3「幅広い市民のニーズに対応した文化生涯学習への連携協力体制」の構築につながります。</p>
市民活動としての特性	<p>当法人は『BRANCH茅ヶ崎』内にある交流スペース『まちスポ茅ヶ崎』を運営しています。子どもからシニアまで幅広い世代が約40人/日、約12,000人/年が訪れる多世代交流の場です。</p> <p>また市南西部地域の市民・自治会・商店会・まちちから協議会・学校・NPO・開発事業者等とネットワークを築き、昔から住んでいる人、新たに移り住んだ人どちらも毎日が彩りを増すような事業を展開しています。</p> <p>このため、主に市南西部地域で暮らし生活する人たちが抱く「こんなまちにしたい」というアイデアや願いを実現する後押しをするなど、市民の想いの受け皿としての役割を果たしています。</p> <p>さらにメンバーは市民活動支援の経験と実績の他、南湖地区在住の市民や湘南地区まちちから協議会委員を務めるなどネットワークもあり、周辺地域との関係性も良好です。</p> <p>また浜見平地区まちづくり計画における将来像「多世代交流（ミクストコミュニティ）」を推進する上でもコーディネート役が期待されています。</p>

協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <p>ハマミーナ総合案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付業務（問合せおよび相談対応、ニーズ集計・分析、報告書作成など） <p>ハマミーナ探検隊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画&当日運営（イベント企画、資料作成、施設案内役など） ・広報活動&周知（チラシ作成・配布、まちぼっち通信、HPなど） ・その他（アンケート作成、集計および分析など） <p>ハマミーナ交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画&当日運営（イベント企画、資料作成、進行・コーディネート役など） ・広報活動&周知（チラシ作成・配布、まちぼっち通信、HPなど） ・その他（アンケート作成、集計および分析など） <p>2 市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供&共有（ハマミーナまなびプラザ等の利用状況データなど） ・活動場所の提供（ハマミーナ会議室・体育室など） ・広報活動&周知（広報ちがさき、エコー・ちがさき、日めくり茅ヶ崎など） ・その他（ハマミーナ各テナント所管課との連絡調整など）
事業実施体制	<p>全体責任者：秦野拓也</p> <p>企画・運営：柴田真季</p> <p>広報物作成：入井徹</p> <p>運営補助等：原幸代、南八重智子ほか</p>
事業スケジュール	<p>平成30年度</p> <p>作戦1.「ハマミーナ総合案内」業務の実施</p> <p>4月～3月 受付業務</p> <p>作戦2.「ハマミーナ探検隊」の実施</p> <p>4月～5月 打合せ、各テナント所管課調整、資料・チラシ作成</p> <p>6月～ 広報（随時）</p> <p>8月 第2回開催 *「学びフェスタ」と合同開催（予定）</p> <p>10月 ふりかえり</p> <p>作戦3.「ハマミーナ交流会」の実施</p> <p>4月～5月 打合せ、各テナント調整、資料・チラシ作成</p> <p>5月～ 広報（随時）</p> <p>6月 第1回開催</p> <p>9月 第2回開催</p> <p>10月 ふりかえり</p>

平成30年度実施協働推進事業 収支計画書

団 体 名	特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎
提案事業の名称	ハマミーナ魅力UP大作戦

(収入)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A 茅ヶ崎市負担金	2,750	
B 合 計	2,750	

(支出)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
C 人 件 費	2,453	1,944,000円 1,000円×8h×243日×1名(ハマミーナ総合案内) 60,000円 1,000円×30h×1回×2名(ハマミーナ探検隊*準備・広報・運営・ふりかえり) 120,000円 1,000円×30h×2回×2名(ハマミーナ交流会*準備・広報・運営・ふりかえり) 192,000円 1,000円×8h×12ヶ月×2名(市との定期打合せ・情報共有) 96,000円 1,000円×4h×12ヶ月×2名(組織内の進捗共有) 5,000円 1,000円×5h×1回×1名(中間報告) 5,000円 1,000円×5h×1回×1名(ふりかえり) 31,000円 1,000円×31h×1回×1名(事業全体報告書作成)
D 旅 費 交 通 費	9	180円×2回×12ヶ月×2名 (市との定期打合せ)
E 通 信 運 搬 費	5	82円×2回×30名 (ハマミーナ交流会)
F 印 刷 製 本 費	30	5,000円 5,000円×1回 (ハマミーナ探検隊A4フルカラー片面チラシ2,500枚) 20,000円 10,000円×2回 (ハマミーナ交流会A4フルカラー両面チラシ5,000枚) 5,000円 5,000円×1回 (事業全体報告書)
G 物 品 費	3	2,000円 (事業全体の文房具一式) 1,000円 1,000円×1冊 (ハマミーナ総合案内月次報告書用A4用紙500枚)
H 一 般 管 理 経 費 (諸 経 費)	250	直接事業費 (C~Gまでの合計) の10%
I 事 業 費 総 額 (CからHまでの合計)	2,750	

市民提案型2 防災への動画活用
（特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット）

協働事業評価書

事業名	防災への動画活用
団体名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
担当課名	市民安全部防災対策課

目標の設定

事業実施前に、事業の実施により達成する目標や、受益者評価の目標を設定してください

成果目標

各項目については、実施団体と担当課が協議の上で決定してください。

目標とする成果（何がどう変化することを目指すのかを記入してください。）

防災資機材の使用方法を動画で作成し、自主防災組織、防災リーダー、自治会などを通じて、市民に啓発する。
これにより、市民の「自助」の防災意識を一層高める

活動指標(サービスやイベントなどの実施内容)	対象者等	目標値	結果
防災資機材の動画作成 インターネットでの広報 DVD作成	市民	8本 構築 150枚	

受益者評価の目標値

評価手法	対象者等	目標値
アンケート調査	防災リーダー	動画活用した 70%以上

受益者評価ができない場合、その理由を記入してください。

--

中間評価

中間評価

各項目の評価

下記の評価項目について、1点から5点の評価または、設問に沿ったコメントを記入してください。

評価得点の目安



- 5点・事業実施前の想定をはるかに良い方向に上回った
- 4点・事業実施前の想定をやや良い方向に上回った
- 3点・事業実施前に想定した範囲の評価であった
- 2点・事業実施前の想定より評価がやや低いと感じられた
- 1点・事業実施前の想定より評価がはるかに低いと感じられた

協働プロセス

相乗効果	評価点数・団体	評価点数・行政
1. それぞれが単独で行うよりも大きな効果を得ることができていますか	3	3
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入

事業内容の評価

事業の進捗状況	評価点数・団体	評価点数・行政
2. 事業は計画通りに進捗しているか	2	2
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
1点及び2点と評価した場合、理由を記入してください→	調整に手間取り、 予定スケジュールから遅れている	事業の企画や調整に時間を要し、 当初予定していたスケジュール通りに 進行できていないため。
	↑コメントを記入してください	↑コメントを記入してください

事業手法の妥当性	評価点数・団体	評価点数・行政
3. この事業を協働という事業手法で行うことが最善であると感じましたか	5	3
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	実際手掛けてみて、 この種の事業は、 市単独でも市民団体単独でも、 実施が困難であると感じた	それぞれの知見、技術や経験を活かした 事業であり、当初の想定範囲の評価で あった。
	↑コメントを記入してください	↑コメントを記入してください

事業手法の妥当性	評価点数・団体	評価点数・行政
4. 事業を実施する事により市民の満足度は高めることができそうと感じますか	3	3
	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	まだ市民に公開する段階まで 進んでいないので、 評価できない	動画の作成により、資機材の取り扱いを いつでも確認できることを可能とし、市民 にとって継続的な技術の習得には効果的 と考える。
	↑コメントを記入してください	↑コメントを記入してください

平成30年度実施協働推進事業 事業概要書

実施年度	平成30年度
団体名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
提案事業の名称	防災への動画活用
これまでの経過 (活動経過等)	<p>防災については、東日本大震災の被災者支援に携わったこともあり関心を持ち、防災セミナーでの講演などを行ってきた。</p> <p>また、動画については古くより動画研究会を組織し、技術の研鑽に努め、総務省主催わがまちCMコンテストに4年連続受賞、湘南ふじさわシニアネットの実施するイベントはほぼすべて動画で記録、毎月ライブスタジオかわせみを実施するなど実績を積み上げてきている。</p> <p>茅ヶ崎市の協働推進事業としては、ICTを活用した地域コミュニティの醸成(平成22年度)、生涯学習ガイドブック検索システムの構築(平成24年度)、新しい公共の担い手ブラッシュアップ事業(平成24年度)、ちがさきエコネット事業(平成26年度)、リユースを中心とした4R促進事業(平成27年度)と5件の経験がある。</p> <p>本事業については、平成29年度は防災資機材の動画作成を中心に遂行中である。</p>
現状の課題	<p>防災は行政にとっても市民にとっても最重要の課題で、自主防災組織、自治会活動などを通じて防災訓練、防災リーダー養成が行われ、多くの防災資機材も備蓄されている。また、市民まなび講座などによる市民に対する啓発も行われている。</p> <p>しかしながら、減災への取組みとして、「自助」、「共助」の必要性も叫ばれているが、防災訓練や市民まなび講座に出席する市民も限られており、防災資機材を活用できるかまた災害発生時に適切な対応ができるかという不安がある。</p>
事業の目的	<p>前年度の防災資機材の使い方の動画化に引き続き、市民まなび講座等を動画化活用して、市民が必要十分な防災知識を持ち、災害時にも適切に行動できるようになることを目的とする。</p>
提案事業の目標 (目標値等)	<p>【2年目の目標】</p> <p>茅ヶ崎市市民まなび講座で行っている防災に関する講座等を動画化して、市のホームページから閲覧できるYoutubeの専用チャンネルにアップする。実際に講座に参加しなかった市民でも、知識が得られる。 (作成する講座の動画 8本)</p>

<p>2年目の 提案事業の概要</p>	<p>茅ヶ崎市では、市民にとって有用な多くの講座を市民まなび講座として提供しており、防災に関しては「地域の災害リスクに備える」として依頼団体のニーズに合わせた内容としている。</p> <p>【代表的な講座内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①家屋倒壊 ②津波 ③火災 ④風水害、土砂災害 ⑤避難行動要支援者支援制度 ⑥避難所、避難場所 ⑦在宅避難 ⑧自主防災組織の取り組み <p>これらの講座を動画化して、市民が市のホームページから閲覧できるようにする。また、市民の防災への啓発活動に協力する。</p> <p>啓発活動として、DVDを制作し自主防災組織や自治会の日頃の防災研修に活用する。</p> <p>また、防災動画が完成しホームページ上から閲覧できることを告知するチラシを作成し自治会回覧する。また、公共機関にはチラシを置くと共に、ポスターも掲示する。</p>
<p>事業の対象</p>	<p>茅ヶ崎市民、自主防災組織、防災リーダー、自治会</p>
<p>協働の必要性</p>	<p>茅ヶ崎市の想定される災害の状況やそれに対する対処方法の説明、指導は市の職員が行うが、それを動画化し、体系的に継続して蓄積することは難しい。</p> <p>一方、市民活動団体は動画の作成に精通している。また市民感覚で市民にどのように示せば分かりやすいかを熟知している。</p>
<p>協働による 相乗効果</p>	<p>市の持つ災害の想定やそれに対する対処方法、防災資機材に関する知識等を、市民が十分に活用できるようになる。</p>
<p>市民活動としての 特性</p>	<p>公益性：市民にとって防災は最も重要な課題 当事者性：市民団体の構成員も当事者 専門性：最新の動画とICT（情報通信技術）を活用 柔軟性：多様な人材が柔軟な発想で参画 創造性：動画の企画・編集は創造性の塊</p>

協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画 ・動画撮影・編集 ・Youtubeチャンネルの作成とアップロード ・DVD作成 ・広報・周知媒体（ちらし等）の作成 ・プロジェクト管理（品質、スケジュール、コスト） ・議事録、報告書の作成 <p>2 市に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画 ・関係課かいとの連絡調整 ・防災リーダー養成研修会への参加 ・関連する市民まなび講座の紹介 ・防災資機材の取扱い方法指導 ・市民、自主防災組織、防災リーダー、自治会などへの広報 ・会議室の提供
事業実施体制	<p>統括責任者：小林信武 プロジェクトマネージャー：市川幸利 スタッフ：伊藤外美子、安岡伸、湊元カ他</p>
事業スケジュール	<p>平成30年4月～平成31年3月 毎月の定例会議でプロジェクト管理 平成30年4月～5月 全体企画 平成30年6月～平成31年3月 市民まなび講座の防災に関するテーマについて、逐次動画撮影・編集・Youtubeアップロード、DVD・チラシ/ポスターの配布</p>

平成 30 年度実施協働推進事業 収支計画書

団 体 名	特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット
提案事業の名称	防災への動画活用

(収入)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A 茅ヶ崎市負担金	1,320	
B		
C		
D		
E 合 計 (AからDまでの合計)	1,320	

(支出)

区 分	見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F 人 件 費	1,003	プロジェクト会議 72工数×1,620円=116,640円 動画打合せ・撮影・編集・アップロード 8本×62.5工数×1,620円=810,000円 DVD原版制作 15工数×1,620円=24,300円 Youtubeチャンネル構築・運用 12工数×1,620円=19,440円 ポスター/チラシ企画・デザイン 10工数×1,620円=16,200円 アンケート作成・分析 10工数×1,620円=16,200円
G 謝 金		
H 旅 費 交 通 費	45	プロジェクト会議 24人回×700円=16,800円 動画打合せ・撮影 40人回×700円=28,000円
I 通 信 運 搬 費	17	郵送料 140通×120円=16,800円
J 印 刷 製 本 費	156	DVD複製・ラベル印刷 (DVDケース込) 3×150枚×275円=123,750円 チラシ印刷 A4カラー両面 15,000部×2円=30,000円 ポスター印刷 A3カラー片面 100部×20円=2,000円
K 物 品 費	12	プリンターインク代、用紙代 12ヶ月×1,000円=12,000円
L 賃 借 料		

M	保 険 料		
N	一 般 管 理 経 費 (諸 経 費)	87	(上記合計の10%以内)
O	事 業 費 総 額 (FからNまでの合計)	1,320	

市民提案型③ 中学生への学習支援事業「わかる喜びを、生きる力に」
(こども応援丸)

協働事業評価書

事業名	市民提案型協働推進事業(中学生への学習支援)
団体名	こども応援丸
担当課名	学校教育指導課

目標の設定

事業実施前に、事業の実施により達成する目標や、受益者評価の目標を設定してください。

成果目標

各項目については、実施団体と担当課が協議の上で決定してください。

目標とする成果(何がどう変化することを目指すのかを記入してください。)

- ・現行対象中学校ともう1校の計2校で、各学校が支援を必要としていると判断された生徒を対象に学習支援を実施する。
- ・支援対象生徒の学習会参加人数の半数以上の学習ボランティアを毎回確保する。
- ・学習支援ボランティアの方たちに当事業への理解を深めてもらうとともに、学習支援に対する姿勢、考え方を共有するため、学習支援ボランティア養成講座を実施する。

活動指標(サービスやイベントなどの実施内容)	対象者等	目標値	結果
・学習会	市内2校の中学生	毎月2回以上実施(新規実施校は夏休み以降)	
・学習支援ボランティア養成講座	学習支援ボランティア	年4回実施	

受益者評価の目標値

評価手法	対象者等	目標値
受益者アンケートの実施(学習会ごと)	学習支援を受けた中学生	学習会に参加した生徒の6割以上が肯定的に捉えている。

受益者評価ができない場合、その理由を記入してください。

--

中間評価

中間評価

各項目の評価

下記の評価項目について、1点から5点の評価または、設問に沿ったコメントを記入してください。

評価得点の目安



- 5点・事業実施前の想定をはるかに良い方向に上回った
- 4点・事業実施前の想定をやや良い方向に上回った
- 3点・事業実施前に想定した範囲の評価であった
- 2点・事業実施前の想定より評価がやや低いと感じられた
- 1点・事業実施前の想定より評価がはるかに低いと感じられた

協働プロセス

	評価点数・団体	評価点数・行政
相乗効果	5	4
1. それぞれが単独で行うよりも大きな効果を得ることができていますか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入

事業内容の評価

	評価点数・団体	評価点数・行政
事業の進捗状況	3	3
2. 事業は計画通りに進捗していますか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
1点及び2点と評価した場合、理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください

	評価点数・団体	評価点数・行政
事業手法の妥当性	5	5
3. この事業を協働という事業手法で行うことが最善であると感じましたか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください
	新たな学校で学習支援事業がスタートできたのは、学校教育指導課の力に依るところが大きく、単独では学校の協力は得られなかったらと思うため。	子どもたち一人一人のニーズに応じた学習支援を行うことができた。また、自校の教職員以外の大人との関わりは、子どもの社会性を育む上でも大変有意義なものであると感じられた。

	評価点数・団体	評価点数・行政
事業手法の妥当性	5	5
4. 事業を実施する事により市民の満足度を高めることができそうと感じますか	↑ 1点から5点を記入	↑ 1点から5点を記入
そのように感じる理由を記入してください→	↑ コメントを記入してください	↑ コメントを記入してください
	学習支援に参加している子どもたちへのアンケート結果から高い満足度を得られており、また学校からも、授業中顔が上がっていき生徒の顔が上がってきたとの報告を受けているため。	参加した子どもたちのアンケートから、概ね満足度は高かったと判断することができた。また、参加したことにより、学校の授業での学習意欲の向上につながったと思われる生徒が見られたことは、高い評価に値する。

平成30年度実施協働推進事業 事業概要書

実施年度	平成30年度
団体名	特定非営利活動法人こども応援丸
提案事業の名称	中学生への学習支援活動ーわかる喜びを、生きる力にー
これまでの経過 (活動経過等)	<p>○平成28年8月、西浜中学校の協力を得、学習支援活動を開始</p> <p>○学校の授業についていけなくなっている子どもたちに、個別指導による学習支援を実施。</p> <p>○学校の授業についていけず、学習意欲を失いかけている子どもたちに、地域の大人たちが寄り添うことで、意欲を取り戻せることを実感。</p> <p>○平成28年11月より、西浜中学校との協働による公民館での学習支援活動を本格的に開始。</p> <p>○平成29年4月協働推進事業開始により、中島中学校での学習支援が決定。</p> <p>○8月の夏休みより中島中学校での学習支援開始</p>
現状の課題	<p>○学校では集団授業が中心になるため、授業内容がよく理解できず、ついていけなくなってしまう子どもたちが相当数存在する。</p> <p>○そのような子どもたちには、個別にケアをして遅れを取り戻す必要性があるものの、多忙化を極める学校現場にそれを求めるのは難しい。</p> <p>○学習意欲の欠如が不登校やいじめ、非行等にも繋がってしまっている。</p>
事業の目的	<p>○地域の大人や大学生の学習支援ボランティアを募り、学校の授業についていけなくなっていたり、経済的理由で塾等に通えない子どもたちに個別指導による学習支援を実施し、学習意欲を取り戻すための手助けをする。</p> <p>○親でも教師でもない第三者と子どもとの「ナナメの関係」を築くことで教える側と教わる側双方向での人間的成長を目指す。</p> <p>○地域の人々との関わりを通して子どもを見守り、地域社会の良質なコミュニティを形成する。</p>
提案事業の目標 (目標値等)	<p>【2年目の目標】</p> <p>学習支援事業を1校追加し、西浜中学校、中島中学校を含めて計3校で実施する。</p>
2年目の提案事業の概要	<p>○学校教育指導課を通じ、当事業の受け入れを希望する中学校を募り1校を選出、夏休みから学習支援を開始する。</p> <p>○学習支援を行う講師はボランティアを募り、個別指導もしくは講師1対生徒2で指導を行えるよう人数を確保する。</p> <p>○学習支援ボランティアの募集は、地域、市内の高校や近隣大学への呼びかけ、シルバー人材センターの活用等を通じて幅広く行う。</p> <p>○学習支援ボランティアの人材育成とクオリティーを一定水準以上に保つために『学習支援ボランティア養成講座』を実施する。</p>

事業の対象	<p>○学校の授業から遅れている中学生や経済的な理由で塾などへ通えない中学生を対象に学習支援を行う。</p> <p>○個々の子どもの抱えている実態を最もよく把握している学校の協力を得て、学習支援を必要とする生徒を学校に選定してもらい、学習支援への参加を促してもらう。</p>
協働の必要性	<p>○現実に学習支援を必要としている子どもたちの情報を保有していない私たちが直接アプローチすることは困難である。</p> <p>○子どもの情報を保有し、子どもや保護者への影響力や信頼関係を持つ学校と一致協力することで成立する事業である。民間・行政・学校が三位一体となって進めることで、より効果が期待できる。</p>
協働による相乗効果	<p>○行政が私たち民間と学校のパイプ役となることで、学校との協力体制ができれば、支援を必要としている子どもたちに適切に手を差し伸べることが可能になる。</p> <p>○集団での授業についていけない子どもたちをケアし、個々の生徒の学力を伸ばすことができれば、学校全体での学力向上につながる。</p> <p>○学習支援を行ってもらうボランティアを発掘することにより、地域コミュニティの活性化が図れる。</p> <p>○子どもたちの学習意欲の向上や地域コミュニティの活性化により不登校やいじめ、非行等の諸問題の低減が期待され、良質な市民の形成につながる。</p>
市民活動としての特性	<p>○西浜中学校での実践から、学校の授業に追いついていけない子どもたちが現実に存在し、地域の大人たちの力で彼らの学習意欲を取り戻すことが可能であると実感し、その経験を当事業に生かすことができる。</p> <p>○当団体には各学校でPTAを経験している者が多く、学校と協力していく上で学校との付き合い方、距離の取り方をよく知っている。</p>
協働の役割分担	<p>1 提案団体が果たそうとする役割</p> <p>○学校の授業についていけない子どもたちに個別に学習支援を行うことで、集団授業ではカバーできない部分を補完する。</p> <p>○地域の大人や学生の学習支援ボランティアを募り、『学習支援ボランティア養成講座』を経てから講師として派遣する。</p> <p>○地域の大人と子どもを結びつけ「ナナメの関係」を作り、地域の良質なコミュニティを形成する。</p> <p>2 市に期待する役割</p> <p>○各学校に、当事業の意義、必要性を理解してもらい、学校からの強い協力を引き出す。</p>

事業実施体制	事業責任者 津田眞利 その他実行員 吉田繁子、入澤真由美、斎藤敏子、内藤幸久、森浩之
事業スケジュール	平成30年1月～3月 学校教育指導課を通じて当事業の受け入れを希望する学校を募り、1校を選定 平成30年4月～ 夏休みの開催に向けて、決定した学校と詳細の打ち合わせを開始 既に実施している2校は継続して実施 平成30年7月～8月 追加決定した中学校での学習支援開始 平成30年9月以降 追加決定した中学校での学習支援を本格稼働

平成30年度実施協働推進事業 収支計画書

団 体 名	こども応援丸
提 案 事 業 の 名 称	中学生への学習支援事業—わかる喜びを、生きる力に—

(収入)

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
A	茅ヶ崎市負担金	1,329	
B			
C			
D			
E	合 計 (AからDまでの合計)	1,329	

(支出)

区 分		見積額 (単位：千円)	内訳 (積算根拠)
F	人 件 費	656	教室スタッフ (会場セッティング、教室管理、講師送迎など) $1名 \times 1,000円 \times 2h \times 95回 = 190,000円$ 学習ボランティア養成講座準備 (プログラムの見直し、資料再作成など) $1人 \times 1,000円 \times 10h = 10,000円$ 学習ボランティア養成講座運営 (講師1名、会場スタッフ2名) $3人 \times 1,000円 \times 2h \times 3日間 \times 4回 = 72,000円$ 行政、学校との打合せ $2人 \times 1,000円 \times 12回 = 24,000円$ 運営定例会議 (年6回) $10人 \times 1,000円 \times 2h \times 6回 = 120,000円$ 広報 (学習ボランティア募集にかかるチラシ配布、Webを利用した広報活動) $1人 \times 1,000円 \times 8h \times 12か月 = 96,000円$ データ管理、スケジュール管理 $1人 \times 1,000円 \times 8h \times 12か月 = 96,000円$ 会計事務 $1人 \times 1,000円 \times 4h \times 12か月 = 48,000円$
G	謝 金	0	
H	旅 費 交 通 費	314	学習ボランティアへの交通費 $1,100円 \times 3人 \times 95回 = 313,500円$ その他スタッフの交通費は一般管理費で対応。

I	通信運搬費	7	事業協力者への会報誌発行にかかる切手代 1回20枚×82円×4回=6,560円
J	印刷製本費	75	学習ボランティア養成講座資料（小冊子）印刷 350円×200部=70,000円 学習ボランティア募集チラシ2,000枚 5,000円
K	物品費	142	追加教材費（小中学生用参考書、問題集） 30,000円 追加教材費（ボランティア養成講座用教材） 20,000円 印刷用紙代 1箱2,500枚1,800円×12箱=21,600円 インクトナー代 30,000円 文房具（鉛筆、赤ペン、ホチキス、はさみ、ファイル その他） 40,000円
L	賃借料	0	
M	保険料	15	NPO活動総合保険加入 年間保険料14,104円
N	一般管理経費 （諸経費）	120	F～Mの事業費合計額×10%
O	事業費総額 (FからNまでの合計)	1,329	

